文部科学省　委託事業

平成 26 年度「高度人材育成のための社会人学び直し大学院プログラム」

「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」
（略称：GPL 講座）

委 託 業 務 成 果 報 告 書

平成２７年５月

報告者／事業者：国立大学法人名古屋大学大学院

工学研究科航空宇宙工学専攻

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、国立大学法人名古屋大学が実施した平成２６年度「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

１．　要旨

２．　実施概要
　2-1 実施内容
　2-2 実施日程
　2-3 実施体制
３．　実施結果
　3-1 GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析
　3-2 講演会企画
　3-3 講座改善計画
　3-4 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）
　3-5 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）

４．　纏め

添付資料
　参考資料１　アンケート（受講者用および受講者の企業上司用）
　参考資料２　アンケート集計結果

１．　要旨

航空機産業が終結する中部地域は愛知・岐阜・三重・長野・静岡を国際戦略総合特区「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定され活動を続けている。この特区の雇用者数は平成27年までに20,000人を目標としている。

この地域においての喫緊の課題は、これらの雇用者を指揮・指導するグローバルな対応能力や航空機の技術集約部品を取り扱う高度なプログラム管理能力を有する技術リーダーの育成である。この課題解決のため、時節によって刻々変化する企業要請に即した課題を反映可能な高度な大学院教育プログラム構築が求められている。

この事業は、本校で実施されてきた「航空機開発プロジェクトリーダー養成講座」が適切な課題提供と企業の要請にあった教育が提供されたかを調査・評価し、刻々と変化しうる航空機開発の課題に沿った講座となるように企画し、平成27年度以降のGPL養成講座に成果を反映させる目的で提案された。

本成果報告書は平成26年10月から平成27年3月までの活動と成果をまとめたものである。

２．　実施概要

2-1　実施内容

今期の活動は下に示す５項目である。

(1) GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析
(2) 講演会企画
(3) 講座改善計画
(4) 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）
(5) 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）

2-2　実施日程

今期の活動は下に示す計画に沿って概ね予定通り実施した。

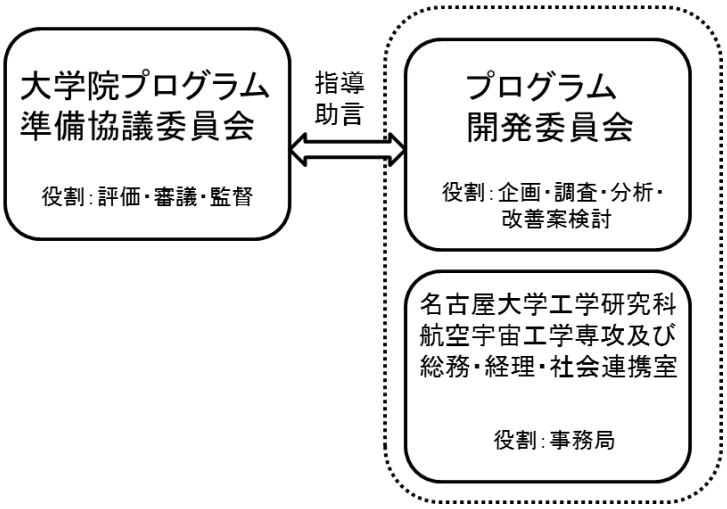
調査の対象となった平成 26 年度の GPL 講座は平成 26 年 5 月から 9 月の間に開催したもの。受講者数は２５名。

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
GPL講座評価・養成の調査（受講生・企業等）・分析							アンケート調査・分析					
講演会企画								講演者と演題の設定・調整				
講座改善計画									講座改善事項整理			
講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）									カリキュラム・教材・講義会場準備			
事業PR講演会開催（航空機開発とその課題）										基調講演会実施（３月７日）		

2-3　実施体制

これまで本学で実施してきた航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成(GPL)講座での実施体制を基本として、本事業の業務運営管理，取り扱い業務に当たることとした。以下に体制図を示す.

GPL講座実施体制



大学院プログラム準備協議委員会は，航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム協議委員会の略称略称で下記に構成メンバーとその役割を記す.

構成員

連携機関（企業・団体・機関等）の名称 構成員の所属・職名 役割	氏名
（1）名古屋大学 名古屋大学大学院工学研究科長・プログラム責任者	松下 裕秀
（2）名古屋大学 名古屋大学大学院工学副研究科長・プログラムコーディネーター	佐宗 章弘
（3）名古屋大学 名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻特任准教授・プログラムマネージメント、学内外調整	林 賢吾
（4）川崎重工業株式会社航空宇宙カンパニー技術企画管理部・技術情報課長 カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	辻 浩敏
（5）三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所名古屋総務統括部・人事課人材開発チーム主任 カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	佐藤 誠
（6）三菱航空機株式会社 コーポレート本部 総務部・人事グループ主任 カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	及川 佳則

役割

大学院プログラム準備協議委員会は、後述の「プログラム開発委員会」が実施する以下の項目について助言、指導および監督を行う。

（1）平成 26 年度に実施する「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座（GPL 講座）」「GPL 展開講座」の調査および分析結果を評価し、助言および指導を与えるとともに妥当性を審議する。

（2）プログラム開発委員会の提案する改善策を評価し、助言および指導を与えるとともに審議する。

（3）プログラム委員会による「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」実施の際には、適切な講師を選定し派遣するとともに、受講生を募集し派遣する。

（4）実施会場および設備を提供するとともに、修了要件の設定および修了証の発行を行う。

プログラム開発委員会の構成員およびその役割を以下に記す.

構成員

氏名	所属・職名 役割等
吉川 典彦	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・教授 委員長
笠原 次郎	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・専攻長 副委員長
林 賢吾	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・特任准教授 カリキュラム企画、教材開発、学内外調整、授業担当
末福 久義	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・特任助教 カリキュラム企画、授業担当
酒井 武治	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・准教授 カリキュラム企画、学内調整、授業担当
武市 昇	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・准教授 カリキュラム企画、学内調整
三橋 光紀	㈱ＥＣＣ 法人渉外部門 法人事業課 営業 ビジネス英会話分野のカリキュラムの企画

役割

プログラム開発委員会は、以下の項目を実施する。

（１）プログラム開発委員会は平成 26 年度に実施される「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座（GPL 講座）」「GPL 発展講座」の教材および受講生へのアンケート、および受講生派遣企業へのヒアリングにより、その受講満足度および目標達成度を調査し、改善の可能性を分析する。

（２）調査結果について協議の場の評価を受け、改善を推奨された項目について具体的な改善案を検討する。

（３）改善案に基づき新たなカリキュラムを企画し、協議の場より承認を得る。

（４）承認を得たカリキュラムに基づいて、「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」を構築する。

（５）プログラムの実施スケジュールおよび実施場所などの準備・広報に努める。

（６）平成 27～28 年度に「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」を実施し、年度毎に、目標達成度を評価し検証する。

３． 実施結果

３-１ GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析

① アンケート調査・分析

企業のニーズにあった講座内容としていくために、平成 26 年度上期に実施した GPL 講座に参加した受講生、及びに受講生の属する企業の上司にアンケートを実施した。その結果、受講生 25 名中 22 名、上司 25 名中 18 名から回答を入手した。

② アンケート内容と結果

アンケート内容と集計結果はそれぞれ本報告書に添付する参考資料１及び２を参照方。

ここでは要点のみを記す。

【受講生】下記内容について調査（要点のみ記載）

１．全般情報について

ア．所属区分⇒機体/エンジン/装備品メーカー（４１％）、エンジニアリング会社（３６％）、学院生（１８％）

イ．勤務先所在地⇒愛知県（65%）、岐阜県（24%）、三重県（6%）、その他（６%）

ウ．会社規模（従業員数）⇒１０～２０人（５%）、１００～５００人（１１%）、５００～１０００人（２６%）0、１０００人以上（５８%）
エ．受講生の職種　（複数回答あり）⇒営業（６%）、研究開発設計（６７%）、生産技術（６%）、品質管理（６%）、サービス（６%）、その他（１１%）
オ．受講生の勤続経験⇒若手社員（３９%）、中堅社員（５０%）、ベテラン社員（６%）、その他（６%）
カ．受講生英語レベル（TOEIC 換算）⇒861 点以上（１０%）、731～860 点（２５%）、601～730 点（２５%）、471～600 点（１０%）、346～470 点（１０%）、261～345 点（５%）

2．GPL 講座に関する会社支援について
ア．授業料 25 万円/人について⇒高い（４１%）、適切（５９%）、安い（０%）
イ．所属会社からの支援について⇒全額会社負担（７８%）、半額会社負担（１１%）、全額自己負担（１１%）

3．講座内容および今後の活用に関する質問
ア．講座において得られた知識・経験⇒過半数が"新たな知識や経験を多く習得することが出来た"と回答
イ．講座の狙い・目標の達成度⇒過半数以上が狙いを理解し目標に達成したと回答
ウ．講座の有効性について⇒過半数以上が有効と回答
エ．全 15 回カリキュラム・テキスト類・講師について⇒過半数以上が Excellent と回答
オ．カリキュラムの内容・量について⇒過半数以上が適切と回答
カ．期間 75 時間/15 回について⇒過半数以上が丁度良かったと回答
キ．開催日⇒過半数以上が土曜日開催を希望

【企業の上司】下記内容について調査（要点のみ記載）

1．GPL 講座に関する企業の取組み
ア．位置付け⇒重要な教育プログラムと捉え積極的に奨励
イ．　授業料 25 万円/人について⇒過半数が適切と回答
ウ．授業料・受講時間に関する支援⇒９４%が会社支援と回答
エ．開講期間（75 時間／全 15 回）について⇒過半数が丁度良いと回答
オ．講座開催曜日について⇒過半数以上が土曜日開催を奨励

2．目標の達成度・ 受講評価⇒過半数以上の受講生が自発的に提案・決断を行うようになったと回答

3．成果発表を聴取されたご感想 ⇒全てのチームが適切に成果を発表できていたという評価が多かった。

4．次年度講座に対するご要望⇒基本的に来年度も今期の内容で実施してほしいという意見があった。

3-2　講演会企画

GPL 講座で取上げる課題を提供して頂くべく業界で著名な方々に基調講演を依頼した。 また、この基調講演に関し GPL 講座受講申込締め切り前に受講候補者や企業上司等に案内を発出し GPL

講座の説明(以下の 3-5 の事業 PR 講演会)と共に基調講演会を開催し参加者への情報発信を行う企画を立てた。

講演者と課題は下記のとおり。

① 島裕 株式会社日本政策投資銀行事業化支援センター長
「航空機産業の"解くべき課題"をリフレームする」

②奥田章順 株式会社三菱総合研究所企業・経営部門事業推進グループ兼経営コンサルティング本部参与・チーフコンサルタント
「国内外の航空機産業クラスターとビジネスモデル」

② 石川隆司 名古屋大学 NCC センター長
「複合材の航空機への適用の現状と技術課題、今後の展望」

③ George Maffeo Boeing Japan 社長
「Business Environment andSupply Chain」

④ 岸信夫 三菱航空機株式会社副社長執行役員技術本部長兼チーフエンジニア
「MRJ の開発と航空機産業の発展」

3-3 講座改善計画

GPL 講座が企業の要請にあった主旨のものになっているかどうかを判断するために GPL 講座内容や実施方法に対する改善点を調査すべくアンケート調査及び、企業聞き込みを実施した。集計報告は参考資料 2 を参照方。

以下が改善案の具体例：

■Cross Culture Communication の演習と課題がカリキュラム通りでないケースがあったため、来期の講義 演習は出来るだけ教材に沿った形で実施するようにする。
■英語の講座では次回の課題の案内と必要に応じて宿題等を与える。
■英語の講座で、午前中の知識を使えるような演習を 考慮する。
■英語演習時に Situation や役割を講師が設定し演習自体に時間が使えるよう演習を検討。
■1 分間スピーチは有効なので来期も実施。
■テキストの分冊化を実施。
■教材の目次とページを改善
■Negotiation 演習の時間を確保する。
■教材と目次の整理が必要。
■Video 用マイクの購入を検討。 演習の Video の共有化等検討する。
■英語の時間外課題（宿題）等でビジネス英語の基礎を自習させる等検討する。
■受講料の支払い期間が短すぎたとの意見があり、1 か月から 2 か月関の支払い期間を設ける様に計画する。

上記改善項目は H27 年度の GPL 講座で盛り込んでいくこととした。

3-4 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）

上記のアンケート結果や改善案を盛り込むべく、平成 27 年度 GPL 講座開講に向けた準備作業として以下を実施した。

① 教材の準備

Cross Culture Communication 関連の教材を前年度 5 冊組から 3 冊組に編成し直した。

航空機開発教材は前年度１冊であったものを教材・講演集・FAQ に分冊を行いアンケートで求められるよう使いやすい形とした。

② 講師派遣要請及び調整

航空機開発関係の教師９名（含む開講日の講演者１名）と調整し、カリキュラムに従った課題での講義を依頼した。

ビジネス英会話の講師はネイティブ２名とバイリンガル１名を調整の受け決定。

③ 講義会場手配

平成 27 年度 GPL 講座用に講義室を設定、チーム分けで演習のしやすい講義部屋を設定した。

開講式及び修了式にはホールを予約し、受講者及びその上司が出席できるよう設定した。

3-5 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）

3-2 で企画した基調講演会と GPL 講座紹介を３月７日(土）に実施した。多数の事前申込みがあり、１３０名以上の聴講があった。アジェンダを下に示す。

GPL 講座の紹介と基調講演のアジェンダ

航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座の紹介と基調講演	
12:30-12:35	主催者挨拶： ＜プログラム開発委員会委員長＞ 吉川典彦教授
12:35-12:55	航空機開発GPL養成講座の紹介 ＜GPL事務局＞ 林特任准教授
講演会 第一部	
13:00-13:40 講演 1	島 裕 ＜株式会社日本政策投資銀行 事業化支援センター長＞ **「航空機産業の"解くべき課題"をリフレームする」**
13:45-14:25 講演 2	奥田 章順 ＜株式会社三菱総合研究所 企業・経営部門 事業推進グループ 兼 経営コンサルティング本部 参与・チーフコンサルタント＞ **「国内外の航空機産業クラスターとビジネスモデル」**
講演会 第二部	
14:40-15:20 講演 3	石川 隆司 ＜名古屋大学 NCC センター長＞ **「複合材の航空機への適用の現状と技術課題、今後の展望」**
15:25-16:05 講演 4	George Maffeo ＜Boeing Japan 社長＞ **「Business Environment and Supply Chain」**
16:10-16:50 講演 5	岸 信夫 ＜三菱航空機株式会社 副社長執行役員 技術本部長兼チーフエンジニア＞ **「MRJの開発と航空機産業の発展」**

基調講演の講演者及び講演会の様子の写真を以下に示す。

吉川先生による主催者挨拶の様子

日本政策投資銀行
島センター長の講演の様子

島センター長講演の様子

三菱総合研究所株式会社
奥田チーフコンサルタントの講演の様子

名古屋大学 NCC
石川センター長の講演の様子

Boeing Japan
George Maffeo 社長の講演の様子

三菱航空機株式会社
岸福社長の講演の様子

GPL 講座紹介と基調講演
受付の様子

４．　纏め

平成 27 年度事業に向けた比較データとしてアンケート調査およびその分析を行った．その結果，平成 26 年度に実施した GPL 講座の基本的な枠組みは企業および受講生から好意的に受けとめられていたことがわかった。このため、平成 27 年度から実施する GPL 講座の格子は，基本的に平成 26 年度に実施した内容を維持することとした。 但し 3－3 項に掲げられる講座の実施要領に対する改善点を盛り込むこととした。平成 27 年度に実施する GPL 講座においても今年度と同様なアンケートを実施し講座が企業に要求に即したものとしていく。

企画した基調講演会は多くの参加者(130 名以上)に聞いていただき，平成 27 年度事業における GPL 講座開催趣旨を周知するにあたり有効であった.

以上

参考資料１　アンケート（受講者用および受講者の企業上司用）

平成 26 年度　航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座　(略称：GPL 講座)

受講者殿アンケート回答用紙

（国）名古屋大学大学院工学研究科
航空宇宙工学専攻　GPL 事務局
ご回答日：平成 26 年　月　日

１．全般情報について確認させていただきます。(該当に「○」)

(1) 所属区分

a. 機体、エンジン、装備品会社　b. エンジニアリング会社　c. 航空機用部品・加工メーカー
d. 航空機産業参入企画中のメーカー　e. 名古屋大学大学院生　f. その他（　　）

(2) 勤務先所在地（名古屋大学大学院生は回答不要：以下「◆」ｶ所同様）

a. 愛知県　b. 岐阜県　c. 三重県　d. その他

(3) 従業員数（◆）

a. 10 人未満　b. 10～20 人　c. 20～50 人　d. 50～100 人
e. 100～500 人　f. 500～1000 人　g. 1000 人以上

(4) 受講生の職種（複数回答あり）（◆）

a. 経営者　b. 営業　c. 研究開発・設計　d. 生産技術　e. 製造
f. 資材　g. 品質管理　h. ｻｰﾋﾞｽ/ｶｽﾀﾏｰｻﾎﾟｰﾄ　i. その他（　　）

(5) 勤続年数について（◆）

a. 新入社員　b. 若手社員　c. 中堅社員　d. ベテラン社員　e. その他

(6) 受講生英語レベル（TOEIC 換算）

a. 861 点以上　b. 731～860 点　c. 601～730 点　d. 471～600 点
e. 346～470 点　f. 261～345 点　g. 260 点以下

(7) 講座に対する会社側支援について（◆）

① 授業料 25 万円/人について（受講内容・成果との対比価値）：

a. 高い　（妥当ライン：　　）、b. 適切　c. 安い　（妥当なライン：　　）

②会社の支援：

a. 授業料は（　　）%自己負担,　b. 受講は勤務時間扱いで（（イ）　ある、（ロ）ない）

(8) 上記(1)～(7)への自由記述コメント

（　　）

２．講座内容および今後の活用に関する質問

１）講座において得られた知識・経験：A,B,C 評価：　A: 新たな知識や経験を多く習得することができた。
B: 新たな知識や経験を多少習得することができた。
C: 新たな知識は何も習得できなかった。

【航空機開発・プロジェクト関連】（　）内は講義 No.	**A,B,C 評価**
(1)航空機関連産業の現状課題と将来動向（第１回）	(　　)
(2)航空機開発の特質（第２回）	(　　)
(3)航空機の認証に関する Regulations とガイドライン（第３回）	(　　)
(4)品質管理と特殊工程（第４回）	(　　)
(5)商品企画と開発の流れ（第５回）	(　　)
(6)航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント（第６回）	(　　)
(7)航空機開発手法（第７回）	(　　)
(8)開発手法の傾向（第８回）	(　　)
(9)プロジェクト・マネージメント（第９回）	(　　)
(10)開発計画の管理（第 10 回）	(　　)
(11)SE と Requirement Based Engineering（第 11 回）	(　　)

【International Communication 関連】（　）内は講義 No.	**A,B,C 評価**
(1)Cross Culture Communication（第１回）	(　　)
(2)Presentation Skills & Exploring Culture（第２回）	(　　)
(3)KAS1:Physical vs Digital Mockups（第３回）	(　　)
(4)Business MGMT Skills & Exploring Culture（第４回）	(　　)
(5)KAS2:Wing Skin（第５回）	(　　)
(6)Meeting Skills & Exploring Culture（第６回）	(　　)
(7)KAS3:Aliminum vs Composite Materials（第７回）	(　　)
(8)Negitiation Skills & Exploring Culture（第８回）	(　　)
(9)KAS4:Spoilers（第９回）	(　　)
(10)Review & KAS Set Up（第 10 回）	(　　)
(11)KAS Practice in Groups（第 11～14 回）	(　　)
(12)KAS Practice in Groups リハーサル（第 15 回）	(　　)
(13)成果発表（第 15 回）	(　　)

２）講座の狙い・目標の達成度

GPL 講座では非常に高い目標を掲げています：

・国際設計プロジェクトリーダーとして、世界の航空機産業界とのビジネスコーディネーションを遂行できる人材の育成。

・ビジネスミーティングを主導し、責任者として英語による Executive Summary Report のできる能力の育成

これを踏まえ、講座を終了された皆さんが、どの様に考えておられるか以下にてお尋ねしたいと思います。

(1) 講座の有効性について

受講生のグローバルプロジェクトリーダーとしての技量を全 15 回講義によって即座に実践できるようプログラムを計画しましたが、 少なくとも本講座により目標達成に向けた自己研鑽のプロセスについて何かひらめき・ヒントの様なものを得ていただき、それを拠り所に今後継続的に努力していただくことが一番のポイントと言えます。 その意味を踏まえて、以下の質問への回答をお願い致します。

講座後半 LCPT Case Study(演習)を実行する上で、前半講義の内容及びレベルが課題となります：

・航空機開発・プロジェクト

・International Communication

講座テキスト類は上級者用レベルで設定し、講義および Q&A（Debriefing Sheet）では、噛み砕いて説明する手法を採用しました。これについての意見をお願いします（該当ヵ所に○）。

・Strongly agree　・Agree　・Neutral　・Disagree　・Strongly Disagree

How could we have improve the GPL seminar?

[ ]

(2) 全 15 回カリキュラム・テキスト類・講師について（該当ヵ所に○）。

Excellent　　Average　　Poor

10　9　8　7　6　5　4　3　2　1

Your comment :

[ ]

(3) 本講座の効果についての質問：

a)受講された皆さんが核となり、会社に新規雇用が創出されましたか？

新規雇用創出者数　　名

b)受講された皆さんが核となり、会社の新規取引件数が増えましたか？

新規取引件数　　件

c)受講された皆さんが核となり、会社の売上高が増加しましたか？

売上増加額　　円

本講座の成果の活用について（自由記述）

（　　）

3) カリキュラムの内容・量について：　A:不足している　B:適切である　C:過剰である　D:不要である。

【航空機開発・プロジェクト関連】（ ）内は講義 No.	**A,B,C 評価**
(1)航空機関連産業の現状課題と将来動向（第１回）	(　　)
(2)航空機開発の特質（第２回）	(　　)
(3)航空機の認証に関する Regulations とガイドライン（第３回）	(　　)
(4)品質管理と特殊工程（第４回）	(　　)
(5)商品企画と開発の流れ（第５回）	(　　)
(6)航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント（第６回）	(　　)
(7)航空機開発手法（第７回）	(　　)
(8)開発手法の傾向（第８回）	(　　)
(9)プロジェクト・マネージメント（第９回）	(　　)
(10)開発計画の管理（第 10 回）	(　　)
(11)SE と Requirement Based Engineering（第 11 回）	(　　)

【International Communication 関連】（ ）内は講義 No.	**A,B,C 評価**
(1)Cross Culture Communication（第１回）	(　　)
(2)Presentation Skills & Exploring Culture（第２回）	(　　)
(3)KAS1:Physical vs Digital Mockups（第３回）	(　　)
(4)Business MGMT Skills & Exploring Culture（第４回）	(　　)
(5)KAS2:Wing Skin（第５回）	(　　)
(6)Meeting Skills & Exploring Culture（第６回）	(　　)
(7)KAS3:Aliminum vs Composite Materials（第７回）	(　　)
(8)Negitiation Skills & Exploring Culture（第８回）	(　　)
(9)KAS4:Spoilers（第９回）	(　　)
(10)Review & KAS Set Up（第 10 回）	(　　)
(11)KAS Practice in Groups（第 11～14 回）	(　　)
(12)KAS Practice in Groups リハーサル（第 15 回）	(　　)
(13)成果発表（第 15 回）	(　　)

４）　開講期間および開催日について

(1)期間：75 時間/15 回：

a)短かった　　b)丁度良かった　　c)長かった

(2)開催日：

a)今年度同様　土曜日午後がよい　b)Weekday ⇒ 金曜日午後がよい　　c)その他（　　）

(3)時間数：75 時間/15 回（午前２ＨＲ、午後３ＨＲ）

a)短かった　　b)丁度良かった　　c)長かった

◆意見記述

５）成果発表の感想(自由記述)

６）講師･事務局に対する意見（自由記述）

平成 26 年度　航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座　(略称：GPL 講座)
会社上司殿アンケート回答用紙

(国)名古屋大学大学院工学研究科
航空宇宙工学専攻　GPL 事務局
ご回答日：平成 26 年　月　日

御 社 名： _____
御 芳 名： _____
受講生氏名： _____

「アンケート回答のお願い」
御社の今年度講座受講生殿が、全 15 回／75 時間の講座を受講後、会社業務に直接・間接的に活用いただけているか、あるいは受講生殿ご本人の会社業務への取り組み姿勢がグローバルリーダーへ踏みだすに相応しい積極的取組みが伺えるかを会社上司殿の視点で、本講座の有効性を評価していただきたいとの思いを込めまして、当大学 GPL 事務局からアンケート回答をお願いする次第です。忌憚のない辛口のご意見・回答を歓迎させていただきます。

1．GPL 講座に関する御社の取組み

1-1 会社側の位置づけおよび支援

(1) 位置置付け(GPL 講座「中堅・上級社員を対象とする航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成」の趣旨に沿って)：

a.　重要な教育プログラムと捉え、特に積極的に奨励
b.　一般的社員教育の一つとして希望者を募集
c.　その他（　　）

(2) 授業料について

授業料　25 万円/人について：　a.高い　（妥当ライン：____万円/人）
b.適切
c.安い　（妥当ライン：____万円/人）

(3) 授業料・受講時間に関する御社の支援：該当欄に○印。

ⅰ) 授業料：　a.全額補助　b.半額補助　c.全額本人負担
ⅱ) 就業時間扱い（含：休日残業扱い）
a.　就業時間扱い／休日授業は休日残業扱い
b.　就業時間扱い／振替にて残業扱いなし
c.　就業時間扱いしない
d.　その他
ⅲ) 交通費：　a.全額支給　b.支給無し　c.その他

(4) 開講期間について：期間 75 時間／全１５回。

a.　短い（もっと深い所まで教育することを希望)。　b.　丁度良い。　c.　長い（もっと概要で良い）。
◆意見記述

(5) 講座開催曜日について

a. 今年度同様 毎週土曜日午後
b. Weekday →候補例 ①金曜日午後、 ②その他

◆意見記述

1-2 御社の本講座参画の意図および位置づけに係るご見解の自由記述

GPL 講座ではつぎの非常に高い目標を掲げてカリキュラムを組んでいます。
・国際設計プロジェクトリーダーとして、世界の航空機産業界とのビジネスコーディネーションを遂行できる人材の育成。
・ビジネスミーティングを主導し、責任者として英語による Executive Summary Report のできる能力の育成

このカリキュラム内容を以下に示しますが、御社社員の育成方針に照らしていただき、過不足は御座いますでしょうか?
今後の改善点の参考としてご意見をお聴かせ下さい。
◆意見記述

ご参考：カリキュラム内容

【航空機開発・プロジェクト関連】（ ）内は講義 No.
(1)航空機関連産業の現状課題と将来動向（第１回）
(2)航空機開発の特質（第２回）
(3)航空機の認証に関する Regulations とガイドライン（第３回）
(4)品質管理と特殊工程（第４回）
(5)商品企画と開発の流れ（第５回）
(6)航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント（第６回）
(7)航空機開発手法（第７回）
(8)開発手法の傾向（第８回）
(9)プロジェクト・マネージメント（第９回）
(10)開発計画の管理（第 10 回）
(11)SE と Requirement Based Engineering（第 11 回）

【International Communication 関連】（ ）内は講義 No.
(1)Cross Culture Communication（第１回）
(2)Presentation Skills & Exploring Culture（第２回）
(3)KAS1:Physical vs Digital Mockups（第３回）
(4)Business MGMT Skills & Exploring Culture（第４回）
(5)KAS2:Wing Skin（第５回）

(6)Meeting Skills & Exploring Culture（第６回）
(7)KAS3:Aliminum vs Composite Materials（第７回）
(8)Negitiation Skills & Exploring Culture（第８回）
(9)KAS4:Spoilers（第９回）
(10)Review & KAS Set Up（第 10 回）
(11)KAS Practice in Groups（第 11~14 回）
(12)KAS Practice in Groups リハーサル（第 15 回）
(13)成果発表（第 15 回）

２．目標の達成度・受講評価

本講座の効果を評価するため、以下の情報が判りましたらご教示いただきたく可能な範囲でご記入をお願いいたします。

a)受講生が核となることで、御社に新規雇用が創出されましたか？
新規雇用創出者数　　名

b)受講生が核となることで、御社の新規取引件数が増えましたか？
新規取引件数　　件

c)受講生が核となることで、御社の売上高が増加しましたか？
売上増加額　　円

◆意見記述：

３．成果発表を聴取されたご感想(自由記述)

4．次年度講座に対するご要望（自由記述）

来年の受講予定者数　　名

5．事務局に対するご意見（自由記述）

以上です。ご協力ありがとうございました。

参考資料2　アンケート集計結果

平成 26 年 10 月 16 日

平成 26 年度　GPL 講座　アンケート集計報告

作成：GPL 講座事務局

目　　次

平成 26 年度　GPL 講座　会社上司向けアンケート集計報告

1.GPL 講座に関する御社の取組み

1-1　会社側の位置づけおよび支援

(1)　位置付け（GPL 講座「中堅・上級社員を対象とする航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成」の趣旨に沿って）

(2)　授業料 25 万円/人について

(3)　授業料・受講時間に関する御社の支援

ⅰ）授業料

ⅱ）就業時間扱い（含：休日残業扱い）

ⅲ）交通費

(4)　開講期間について：75 時間／全 15 回

(5)　講座開催曜日について

1-2　御社の本講座参画の意図および位置づけに係る見解の自由記述

2.　目標の達成度・　受講評価

3.　成果発表を聴取されたご感想

4.　次年度講座に対するご要望

5.　事務局に対するご意見

平成 26 年度　GPL 講座　受講生アンケート集計報告

１．全般情報について

①所属区分

②勤務先所在地

③会社規模（従業員数）

④受講生の職種　（複数回答あり）

⑤受講生の勤続経験

⑥受講生英語レベル（TOEIC 換算）＊講座申込時のデータにて作成

2.　GPL 講座に関する会社支援について

（１）授業料 25 万円/人について（受講内容・成果との対比価値）

（２）所属会社からの支援について

3.　講座内容および今後の活用に関する質問

（１）講座において得られた知識・経験

【航空機開発・プロジェクト関連】

【International Communication 関連】

（2）講座の狙い・目標の達成度

1）講座の有効性について

2）全 15 回カリキュラム・テキスト類・講師について

3）Earned Value

4）本講座の成果の活用について

（3）カリキュラムの内容・量について

【航空機開発・プロジェクト関連】

【International Communication 関連】

（4）開講期間および開催日について

ⅰ）期間 75 時間/15 回

ⅱ）開催日

ⅲ）75 時間/15 回（午前 2HR、午後 3HR）の場合

（5）成果発表の感想

（6）事務局・講師に対する意見

平成 26 年度　GPL 講座　会社上司向けアンケート集計報告に基づく改善案

平成 26 年度　GPL 講座　受講生アンケート集計報告に基づく改善案

平成 26 年 10 月 16 日

平成 26 年度　GPL 講座　会社上司向けアンケート集計報告

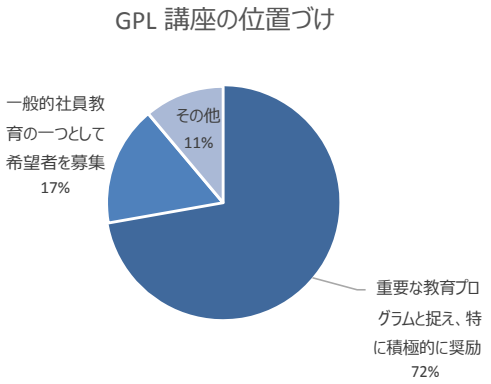
調査日：平成 26 年 9 月 13 日～30 日
回答数：受講生会社上司 25 名中、18 名から回答あり

1.GPL 講座に関する御社の取組み

1-1　会社側の位置づけおよび支援

(1) 位置付け（GPL 講座「中堅・上級社員を対象とする航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成」の趣旨に沿って）

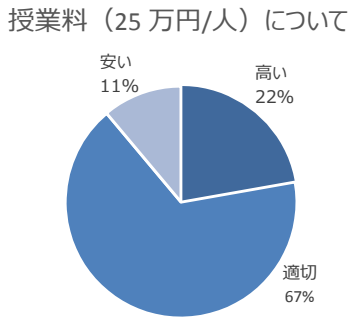
重要な教育プログラムと捉え、特に積極的に奨励	13	72%
一般的社員教育の一つとして希望者を募集	3	17%
その他	2	11%



(2) 授業料 25 万円/人について

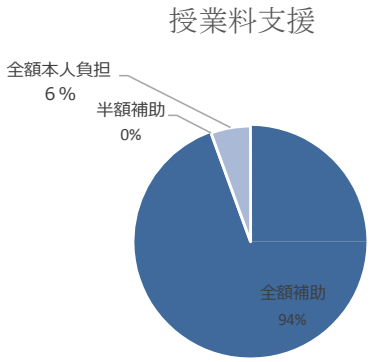
高い	適切	安い
4	12	2
22%	67%	11%

＊妥当ラインに対する意見：15 万円（2 名）



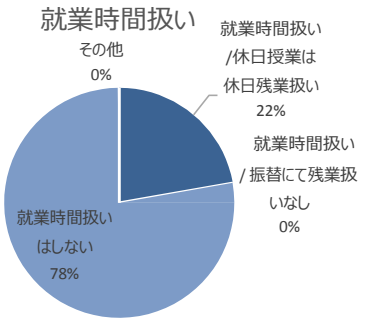
(3) 授業料・受講時間に関する御社の支援
ｉ）授業料

全額補助	半額補助	全額本人負担
17	0	0
94%	0%	6%



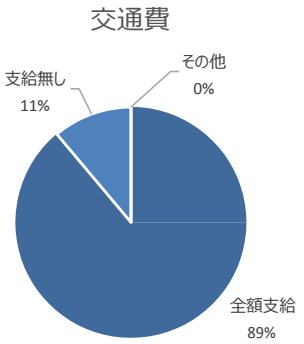
ⅱ）就業時間扱い（含：休日残業扱い）

就業時間扱い/休日授業は休日残業扱い	就業時間扱い/振替にて残業扱いなし	就業時間扱いはしない	その他
4	0	14	0



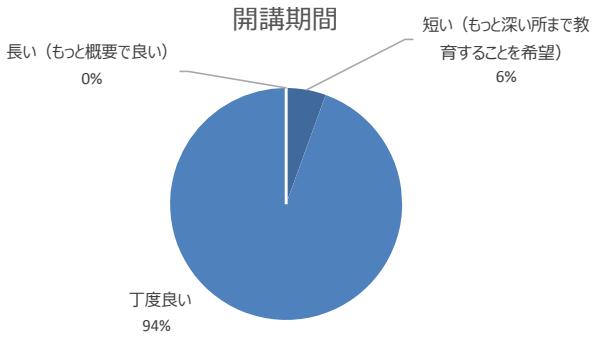
ⅲ）交通費

全額支給	支給無し	その他
16	2	0



(4) 開講期間について：75 時間／全 15 回

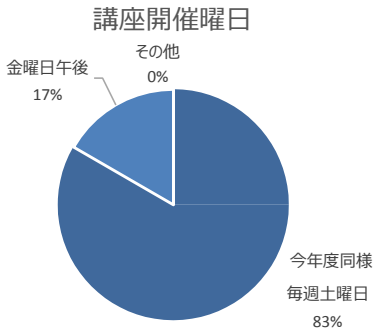
短い（もっと深い所まで教育することを希望）	丁度良い	長い（もっと概要で良い）
1	17	0



	意見記述（開講期間について）
1	長い期間、毎週土曜日に講座があり、本人も大変だったと思いますが、日程的には早めに発表していただいた事と 例年通りの日程のため、調整が付きやすかったと思います。
2	開始前は長いと感じていますが、始まると結構すぐに終わりが見えてくるようで、概ね良い期間だと思います。
	同上他 4 名
3	75 時間については、適当であるが、回数を 11 回程度にしてはいかがか。
4	長すぎても短すぎてもいけない。集中でき、且つ、内容を充実させることが必要。
5	土日の時間外講習なのできつい事は本人も自覚の上で受けていますが、あまり長いと受ける覚悟が難しくなると思い ます。
6	半年以内が、息切れせずに継続でき、かつ受講者間の交流も深めるのに、適切な期間と思います。
7	航空業界に関する座学につき、ボリュームがあるため時間内で完了するため駆け足で行われたとかんじました。できれ ば、もう少し深く掘り下げて教育してほしかったです。
8	特になし。

(5) 講座開催曜日について

今年度同様毎週土曜日	金曜日午後	その他
15	3	0



	意見記述（講座開催曜日について）
1	通常業務との兼合いもあり、平日実施では参加が難しくなります。休日を使うことは、受講生の負担ともなりますが、　逆にヤル気や終わった時の達成感を醸成してくれるようです。
	同上他４名
2	就業時間との兼合いもあり、適当。
3	平日は、会社の業務があるため参加できません。
4	会社での実務での兼ね合いを考えると、毎週土曜日が適切と考える。
5	土曜講座も必要であるが、金曜講座で土曜日は自宅で復習の時間を与えてはと思う。
6	金曜日。
7	会社の業務を停止してまでということは中小企業にとっては厳しすぎて許容しにくいと思います。
8	数か月にわたり、参加を継続するためには、業務への影響が少ない、休日で実施を希望します。
9	自己啓発活動の一環にて、業務時間の Weekday 開催はさけてほしい。予習復習時間等を考えると隔週（２週　間に１回等）の土曜日開催も検討願いたい。
10	社会人参加者は業務上 Weekday での対応は難しいと思われますので、通常通り土曜日を希望
11	特になし

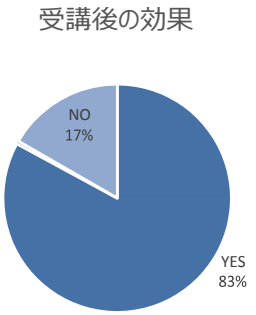
1-2　御社の本講座参画の意図および位置づけに係る見解の自由記述

	意見記述
1	航空機開発の全般にわたっており、特に問題ありません。
2	実務の業務では、なかなか基礎的な部分に立ち返っての検討・考察が出来ず、締切に追われがちになります。我々　が期待しておりますのでは、貴講座が掲げられている目標に沿って、受講生を訓練していただくことで、彼らの基礎的 な能力が向上する事であります。その上で、受講生も業務を通して復習を行うことが可能となり、しっかりとしたレベル　アップが図られると考えております。従いまして、カリキュラム内容については（受講生の理解度に応じて、実行上の 濃淡が必要な場合があるかもしれませんが）特に過不足はない理解です。
	同上他４名
3	過不足はないと考えています。
4	今年度のカリキュラムで、特に過不足はないと考える。
5	航空機開発に伴う基礎的知識をしっかり教育されているのではないかと思う。
6	特に過不足があるとは思えないが、レベルが高すぎる感あり。初級、中級、過程を得た人を対象にすべく内容に思える。
7	内容および方針については、弊社の育成方針と合致しています。　装備品メーカに必要な認証（DO-178 や DO- 254）についての講義を希望いたします。
8	実践的な教育で本人も大変だったが、やりがいはあったと感じているようです。社の将来を担う人材の育成に有意義 な機会であったと考えています。
9	現場での苦労話や、Boeing,Airbus 等での実例紹介。
10	一通りカバーされていると思います。コストマネージメントに関するカリキュラムもあれば、更に充実できるかと思います。
11	ビジネス英語講師の増員を希望します。
12	特になし

2. 目標の達成度・ 受講評価

a)新規雇用創出者数	3
b)新規取引件数	3
c)売上増加額	6,400,00

d)受講生が自発的に提案・決断を行うようになった	
YES	15
NO	3



	意見記述
1	この講座の受講が、即新規雇用や取引件数増に繋がると考えてはおらず、将来の受注もしくは受注後の適切なプ ロジェクトの推進に貢献できる人材への成長を促してもらえるものだと思います。受講により、自発的な提案や行動 が増えたと感じており、その意味で弊社の目的に対する寄与はあったと考えております。
	同上他 3 名
2	受講生かが現れるのは、もう少し後と思います。
3	上記の受講生の自発的提案決断については、どちらかと言えば YES、という印象なので、今後も継続して観察した い。
4	英語力含め、人前で意見を言える（説得力）力が向上していると感じた。
5	弊社においては、本講座で取得した知識、スキルでは、短期的に具体的な効果として現れていませんが、今後の業 務において、プロジェクトの推進の中核として活躍してくれることを期待しています。
6	受講によりビジネス拡大の動きは出てきているが、具体的/定量的な成果はまだ表れていない。

3. 成果発表を聴取されたご感想

	意見記述
1	実際のシチュエーションに合わせたミーティングを模擬した内容で、非常に良いものと思いました。練習した内容とはいえ、このような場において発表したことは、本番の場において、発言する自信が付いたものと思います。
2	研修生は、考えを伝えることを懸命にやっていたと思う。が、議論の前提を発表前に明確にしていただくと、焦点が絞れて聞きやすいのかなと思いました。
3	急用の為、最初から参加できなくて残念でしたが、最終の自由討議の際に、コミュニケーションやプレゼンテーションについて、多く言及されていたのが、印象に残りました。日々の業務の中で、それらの課題を感じる場面が多くあります。 それらの重要性を本人達が実感して、能力向上をしていく良い経験を得られたものと思います。
4	3 チームとも、それぞれの論点について要点が良くまとめられており、今回の講座を通してよく学習されていることを感じ取りました。また、英語による議論についても、内容・進め方等を含めよく学習されていると感じました。各方面から集まり、交流を深めることもできる本講座は大変意義深く、ぜひ継続していただくことを希望いたします。
5	・英語が上手でした。 ・受講生が皆、積極的に取り組んでおり、好感が持てた。
6	参加しませんでした。
7	成果発表は未聴取のため、感想は特にありません。

8	成果発表に参加していませんので、特に感想なし。
9	上司不参加。
10	受講生が発表会も含め、積極的に参加していたことが実感できました。清水は、受講生を代表してのお礼の場も与 えていただきありがとうございました。今後の会社生活でこの経験が必ず活きていくと考えています。
11	各 Gr とも、ストーリーを練り上げて、発表に臨んだことがうかがえました。講座の中では、実施されたのかもしれませんが、実際に近いディベート（その場で議論を交わす）形式でもよかったのではないかと思います。（講座で学んだスキルを確認できる）
12	今年は、3 つのグループが均衡したレベルで発表されていたように感じました。また、今年は会場からの突発的な質問 も多く、それにもしっかりと応えている様子が見られ頼もしく思えました。受講生の皆さんが、講座の中で学んだ事を今 後の業務に活かしてくれると期待しております。
13	全体的によく訓練されており高いレベルの発表であったと思う。
14	非常に有意義な講座であることが良く判りました。本講座のように、グローバルな視点にて航空業界ノウハウを学ぶ、かつグローバルな考え方での議論、交渉、グループ取り纏め活動をする機会は、非常に貴重だと感じています。今後とも継続していただきたくよろしくお願いします。

4. 次年度講座に対するご要望

	意見記述
1	最終講義について、前回や今回は役割を与えられ自分の思いとは異なる内容を述べていましたが、例えば、3～5 の テーマに沿って、講義で学んだ事をベースにそれぞれが自ら意見を述べる形も良いのではないでしょうか？
2	特に予定しておりません。今後、岡田と同等の力量を様子社員には受講を前向きに検討します。
3	弊社の中京地区勤務者は限定的であるため、受講に適した候補者がいる場合は、検討いたします。
4	最終講義について、前回や今回は役割を与えられ自分の思いとは異なる内容を述べていましたが、例えば、3～5 の テーマに沿って、講義で学んだ事をベースにそれぞれが自ら意見を述べる形も良いのではないでしょうか？
5	技術と英語のバランスなど良かったと思うので、基本的には今年の内容を踏襲して実施願います。

※来年の受講予定者数		
min	21	名
max	27	名

5. 事務局に対するご意見

	意見記述
1	講師の方々、事務局の方々、お世話になりありがとうございます。今後も良い講義を続けていって頂きますよう、よろ しくお願いいたします。
2	本年度の受講料の支払において締切までの期間が短いように感じました。社内の手続きに時間を要する場合がございますので、期間的な余裕（ひと月程度）がありますと助かります。
	同上他 3 名
3	久保が自発的に提案を行うようになりました。ありがとうございました。

4	講義内容を把握しないで恐縮ですが、GPL 講座は中堅社員向け講座であり、入社数年の若手社員にはレベルが高いような気がします。
5	機体の運航に伴うアフター・セール・サービスの知識も必要ではないか？
6	特にありません。
7	弊社では航空機プロジェクト関連の技術管理をマネージメントできる経験者がいないため、このような機会を立案、計画していただいた事務局に大変感謝しております。
8	長期間にわたる講座の開催、及び受講者に対するご指導ありがとうございました。今後、若手プロジェクトリーダーが様々な場面で活躍していくように、今後の航空機産業の発展に寄与する人材育成プログラムを充実されていくことを、期待しております。
9	的確なアドバイス/こまめな連絡をしていただき大変助かりました。
10	本講座は航空業界で活躍するための知識を教育するだけでなく、参加することにより航空業界の会社を超えたつながりを生む絶好の機会を与えてくれる場だと思います。ぜひとも、来年、再来年と毎年講座を開いていただき、当社も参加することでそのつながりを強くしていきたいと思います。
11	特にありません。
	同上他１名

以上

平成 26 年 10 月 16 日

平成 26 年度　GPL 講座　受講生アンケート集計報告

調査日：平成 26 年 9 月 13 日～30 日

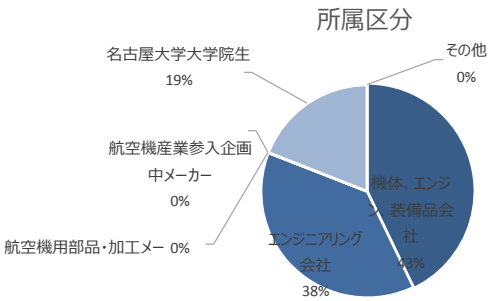
回答数：受講生 25 名中、22 名から回答あり

１．全般情報について

①所属区分

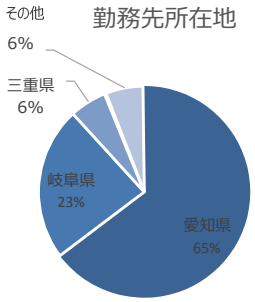
	機体、エンジン、装備品会社	エンジニアリング会社	航空機用部品・加工メーカー	航空機産業参入企画中メーカー	名古屋大大学院生	その他	計
人数	9	8	0	0	4	0	22
%	41%	36%	0%	0%	18%	0%	100%

その他：機械部品メーカー



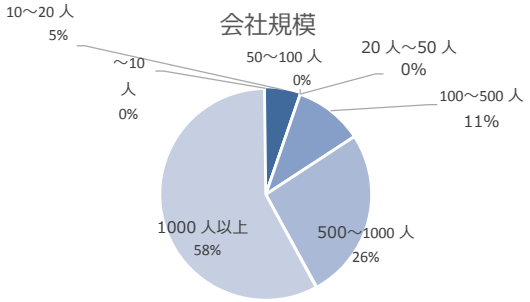
②勤務先所在地

愛知県	岐阜県	三重県	その他	計
11	4	1	1	17
65%	24%	6%	6%	100%



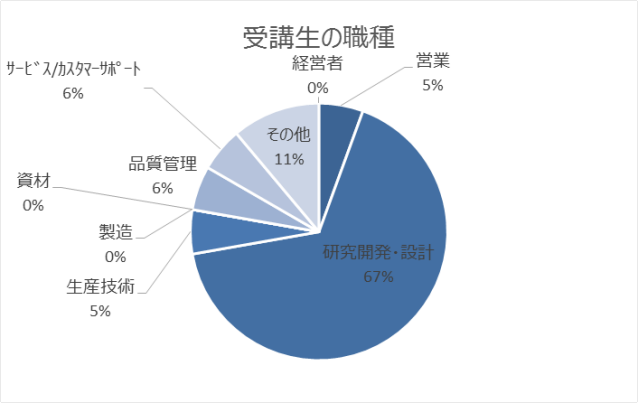
③会社規模（従業員数）

～10 人	10～20 人	20～50 人	50～100 人	100～500 人	500～1000 人	1000 人以上	計
0	1	0	0	2	5	11	19
0%	5%	0%	0%	11%	26%	58%	100%



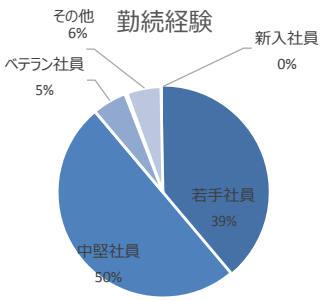
④受講生の職種　　（複数回答あり）

経営者	営業	研究開発・設計	生産技術	製造	資材	品質管理	ｻｰﾋﾞｽ/ｶｽﾀﾏｰｻﾎﾟｰﾄ	その他
0	1	12	1	0	0	1	1	2
0%	6%	67%	6%	0%	0%	6%	6%	11%



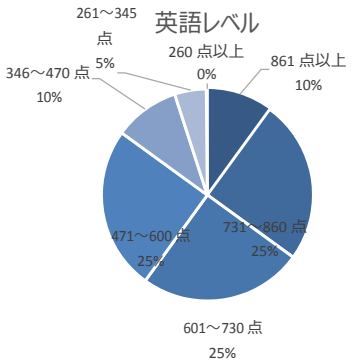
⑤受講生の勤続経験

新入社員	若手社員	中堅社員	ベテラン社員	その他
0	7	9	1	1
0%	39%	50%	6%	6%



⑥受講生英語レベル（TOEIC 換算）＊講座申込時のデータにて作成

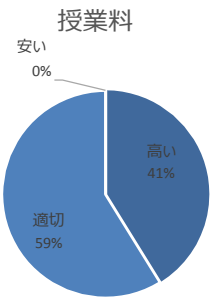
861 点以上	731～860 点	601～730 点	471～600 点	346～470 点	261～345 点	260 点以上
2	5	5	5	2	1	0
10%	25%	25%	25%	10%	5%	0%



2. GPL 講座に関する会社支援について

（1）授業料 25 万円/人について（受講内容･成果との対比価値）

高い	適切	安い
7	10	0
41%	59%	0%



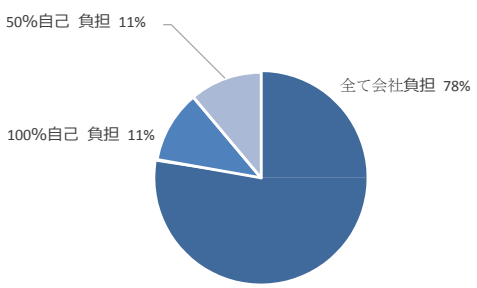
＊妥当ラインに対する意見：
10 万(1 名）、15 万円（1 名）、20 万円（2 名）

（2）所属会社からの支援について

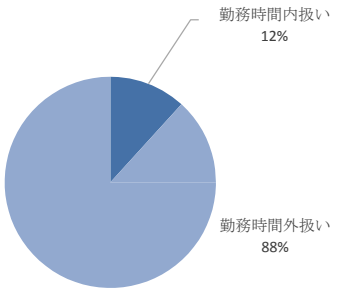
授業料負担	全て会社負担	50%自己負担	100%自己負担
人 数	14	2	2
%	78%	11%	11%

受講時間の位置づけについて	勤務時間内扱い	勤務時間外扱い
人数	2	15
%	12%	88%

授業料支援



勤務扱い



受講生自由記述	
1	受講生のうち、英語レベルが 550 点に達していない人が見られた。 また、受講生の英語力のギャップが大きい（⇒達成すべきゴールが描きづらくなるのでは？）
2	自分は社会人経験が浅いので、第一線で活躍されている他メンバーの方の考え方や意見がとても参考になった。
3	様々な企業から、幅広い年代の方だ参加されていたため、お互いよい刺激を受けながら学ぶことができ、とてもよい経験になりました。

3. 講座内容および今後の活用に関する質問

（1） 講座において得られた知識・経験：A,B,C 評価

【航空機開発・プロジェクト関連】（ ）内は講義 No.

	A:新たな知識や経験を多く習得することができた。	B:新たな知識や経験を多少習得することができた。	C：新たな知識は何も習得できなかった。
(1)航空機関連産業の現状課題と将来動向（第１回）	17	5	0
(2)航空機開発の特質（第2回）	19	3	0
(3)航空機の認証に関するRegulationsとガイドライン (第3回)	19	3	0
(4)品質管理と特殊工程（第4回）	16	5	0
(5)商品企画と開発の流れ（第5回）	15	5	1
(6)航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント（第6回）	15	4	1
(7)航空機開発手法（第7回）	14	7	0
(8)開発手法の傾向（第8回）	17	5	0
(9)プロジェクト・マネージメント（第9回）	17	3	0
(10)開発計画の管理（第10回）	15	6	0
(11)SEとRequirement Based Engineering（第11回）	15	4	1

【International Communication 関連】（ ）内は講義 No.

	A:新たな知識や経験を多く習得することができた。	B:新たな知識や経験を多少習得することができた。	C：新たな知識は何も習得できなかった。
(1)Cross Culture Communication（第１回）	19	3	0
(2)Presentation Skills & Exploring Culture（第２回）	17	5	0
(3)KAS1:Physical vs Digital Mockups（第３回）	13	9	0
(4)Business MGMT Skills & Exploring Culture（第４回）	14	7	0
(5)KAS2:Wing Skin（第５回）	15	6	0
(6)Meeting Skills & Exploring Culture（第６回）	16	5	0
(7)KAS3:Aliminum vs Composite Materials（第７回）	16	6	0
(8)Negitiation Skills & Exploring Culture（第８回）	18	4	0
(9)KAS4:Spoilers（第9回）	13	7	0
(10)Review & KAS Set Up（第10回）	16	6	0
(11)KAS Practice in Groups（第11~14回）	19	2	1
(12)KAS Practice in Groups リハーサル（第15回）	17	4	1
(13)成果発表（第15回）	19	2	1

（2）講座の狙い・目標の達成度

1）講座の有効性について

受講生のグローバルプロジェクトリーダーとしての技量を全 15 回講義によって即座に実践できるようプログラムを計画しました。
本講座により目標達成に向けた自己研鑽のプロセスについて何かひらめき・ヒントの様なものを得ていただき、それを拠り所に今後継続的に努力していただくことが一番のポイントと言えます。 その意味を踏まえて、以下の質問への回答をお願い致します。

講座後半 LCPT Case Study(演習)を実行する上で、前半講義の内容及びレベルが課題となります。
・航空機開発・プロジェクト
・International Communication

講座テキスト類は上級者用レベルで設定し、講義および Q&A（Debriefing Sheet）では、噛み砕いて説明する手法を採用しました。
これについての意見をお願いします

Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly Disagree
6	14	2	0	0

	comment
1	後半の講座では、スケジュールが連絡なく変わって予習がしづらかったです。突然 Discussion,Negotiation しろと言われても、内容が把握しきれていない、終着点が頭の中で描けていない状態でやるのは難しすぎると感じました。来週はここをやるなどの事前連絡がほしかったです。
2	・講座テキスト類のレベルについて、現状維持/もしくはさらなる向上が望ましいと思います。 ・Debriefing Sheet は、口語の理解度確認と疑問を先延ばしにしない（その場で解決する）姿勢/習慣を身に付ける面で継続すべきと　思います。 ・英語力向上と受講生間のコミュニケーションツールとして、NICENET は良かったと思います。
3	講座後半の英語の講義について、翌週の講義がスムーズに進むように翌週内容を予習させるような宿題・課題を与えるとより効果的になる　と思う。受講者が教科書を読むのに時間をとられてしまうことがあり勿体なく感じる。
4	テキストに難しい点があっても講座で受講生の質問に適宜答えて頂いていましたし、翌週の Q　and　A でもフォローして頂いたので、講義内容はよく理解できたと思います。強いて意見を述べさせて頂くなら、午後の英語の演習では午前中の講義内容とは直接は関係のない内容が多かったと思います。午前中に得た知識を午後の演習で直接使えると知識の定着もより良くなると思いました。
5	Q&A は、この講義で最も有意義で参考になりました。午前中の講義資料のレベルは適切、午後の英語テキストは受講生の英語レベルの平　均値を考えると、ややレベルが高いと感じました（個人的には適切と感じました）上記に示された GPL の目標から考えると、成果発表会のようなロールプレイを全 15 回の講義の中で、数多く実施してとにかく身につけることが重要かと思います。歌詞のディクテーションは講義内に実施する必要性は感じませんでした。英語ゲームは、Ice Break としての必要性有り。また、多文化コミュニケーション（例：フランス人は日本人同様にリスクを嫌う）の講義は、受講者にはレベルが高すぎると感じました。
6	テキストの内容は、講義中に説明してくれるので、講義中は良いが帰宅後に見返しにくかった。聞き逃したら、分からなくなってしまうので、キーワードは説明を入れるなりして欲しい。

7	疑問点があっても、Debriefing Sheet により次の講義時に確実に回答をもらえたので、今回の手法は良いと思います。
8	異文化の理解に関しては、文化人類学者による講義があると良いのではないかと思う。また、映画・ドラマ・インタビューなど、実際に目で見える例を題材としたほうが、文化の違いは分かりやすいのではないかと感じた。テキストの文化比較は、主にアンケートによっているように思ったが、それはそれぞれの国の人の「自画像」の違いは反映しているが、必ずしもそれが本当の文化の違いを反映しているとは限らないのではないかと思う。更に言えば、文化の違いには、国の違いだけでなく、産業の違いによるものもある。これらを考えると、文化の比較を専門とする人による講義があってよいと思う。交渉に関しても同様に、交渉を専門的に研究している人が大学にはいると思うので、そういう専門的な観点からの講義が 1 回はあって良いと思う。
9	前半講義はたいへん有用でした。時間配分をもっと増やしていただき、少しでも深く話を聞きたかったです。
10	International Communication の KAS において、まず、自分たちで situation を設定してから、negotiation に入る内容となっていましたが、situation は予め設定していただいた方が、negotiation の方に集中できたと思います。
11	good!
12	後半について。講義自体はわかり易く、ポイントを繰り返し伝えていただけたので良かったが、テキストと異なる内容が多く、テキストの存在意義が少し小さかったように感じる。
13	講義に対する質問に対して、次の講義で毎回丁寧に説明して頂き、大変ありがたかったです。ただ、英語のテキストについて 1 点改善点をお伝えさせていただきます。テキストの作成者と講師が異なっていたため、テキストのレベルと、実際の授業のレベルにギャップを感じる部分があり　ました。テキスト作成者も講義に出席するなどして、実情を把握されたうえでテキストを作成された方が、より良くなると感じました。
14	遠方から通う為テキストが厚く重かった。データないし小分けにして頂けると有難かった。
15	元々専門分野が異なるので、内容によっては理解するのに時間がかかったが、かみ砕いての説明があったので分かり易いと感じることがあった。英語は自分の中で、1 分間スピーチの占める割合が大きかった。
15	多くの人々が意見しているかもしれませんが、勉強時間が足りなかった様な気がします。また、学生と社会人との間の予備知識の差が大きいため、せっかくの講義時間中に「ただ聴いているだけの時間」がみられました。ただ、デブリーフィング　シートでの回答で、定着させる方式も有効と思われます。

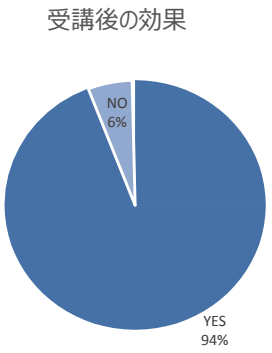
2）全 15 回カリキュラム・テキスト類・講師について

← Excellent				Average				Poor →	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
5	5	7	4	0	1	0	0	0	0

	受講生自由記述（カリキュラム・テキスト類・講師について）
1	午前の講義の内容は、全て面白くとても勉強になりました。しかし、使用するテキストが毎回重かったです。可能ならば、もう少し分割して欲しかったです。
2	技術系講師に構造出身の方が多く見られましたが、今後システムインテグレーションが重視される面からも、装備（システム設計）出身の方も起用されてはいかがでしょうか。
3	テキストには無い資料がたくさんあったが、追加の資料がある場合は配布して貰いたい。
4	英語の講義は、テキスト通りに進めないとした時に、その旨をアナウンスしてほしかったです。どのように予習したらよいかこちらはわからなかったです（当方も Q&A を通して、お伝えすべきでした）。 また、午前のテキストは、分厚すぎるので分割してください。また目次にページ番号がなかったので、あまり目次の役割を果たしていませんでした。
5	I didn't know what you do next week, it was difficult to prepare to next lesson.
6	午前の講座のテキストは講義で使用する部分と Appendix 部分で分かれていると一層便利。
7	英語の講座自体は、個人で学習できる内容は各自が家で行うこととし、講座内では、会議や交渉など相手がいないとできない内容に絞ったほうがよいと思う。１分間スピーチに関しては、文章の添削があったほうが良いと考える。最後の KAS の Wing Skin では、メンバー構成が元々テキストに記述された設定から変わったが、それによりいろいろと混乱を感じた。テキスト自体は元々想定した前提にもとづいて作成されているはずであるし、複数の人間の認識を短い時間で会わせるためには、指示において、突然の変更は避け、なるべくテキストに沿って行うほうがよいと考える。あるいはもし変えるのであれば、テキスト自体から変えるのがよいと思う。講座内におけるゲームについては、５～６人程度のグループであればよいが、２５人では不適であろうと思う。やるならグループを分けて行ったほうがよい。なお、グループ分けを考えると、定員は２５人ではなく２４人が適切ではないかと思う。あと、もしモノポリーの航空産業版があれば、ゲームで交渉を学ぶという点で役立つのではないかと思った。（開発するのが難しいと思うが）
8	特になし
6	航空機開発・プロジェクトの講座では、テキストだけでなく、実際に直面している話を生々しく聞くことができたのが非常に良かったです。英語の１分間スピーチは全員が参加でき、さらに徐々にステップアップしていたので効果的でした。是非、次回も続けていただければと思います。
7	good!
8	全体的によかったが、Negotiation の内容理解、また、ラストの発表準備時間が少し短かった。
9	講義中に話して頂いた、先生方の迫力ある生の体験談や苦労話は貴重でした。 また少人数での英語によるディスカッションや、交渉の疑似体験を何度も行うことを、英語でやり取りしながら、自分の考えをまとめ、それをその場で表現する力が鍛えられました。
10	講師の皆さんの話はどれも興味深いものだった。英会話担当の先生方も懇切丁寧だった。
11	略語や専門用語をまとめた用語集のようなものを作っていただけると、「ちょっとわからない」ときにすぐに調べられていいと思います。また、スライ　ドをテキストにすると、大分分量が大きくなってしまうので、Word への変換がいいと思います。

3）Earned Value

	case1	case2	case3
a)受講された皆さんが核となり、会社に新規雇用が創出されましたか？	0 名	0	1
b)受講された皆さんが核となり、会社の新規取引件数が増えましたか？	0 件	1	0
c)受講された皆さんが核となり、会社の売上高が増加しましたか？	0 円	500,000	0



YES & NO	YES	NO
d)受講以前と比べて、仕事のやり方にめりはりがつき、提案・決断ができるようになった。	16	1

4）本講座の成果の活用について

	受講生自由記述（講座受講の成果の活用について）
1	自分の作業だけではなく、チームさらには課全体の作業を見渡し、判断できるように今後心掛けていきたいと思います。　また、海外の方と Discussion する機会が毎週あるので午後の講義で教わった Discussion, Negotiation の仕方を思い出しながら、徐々に習得していきたいと思っています。
2	・プロジェクト管理/作業展開等に WBS(ソフト:OpenProj)を積極的に活用 ・Meeting やネゴ時、より目的を明確に、戦略を Logical に立てて実行する（自分が主体・コントロール） ・社内のエアツールを再確認 ・出張前に報告書を作成するよう心がける
3	普通の業務では Boeing との英語の会議に出る機会が少なかったため、英語でやりとりすることに抵抗があったが、本講座で英語でやり取りする機会が増え、英語の会議でも発言できる自信になった。
4	今までは自分の仕事を担当者の視点でしか認識していませんでしたが、講座を通してもっと大きな視点（マネージャー、会社、社会）から再認識できました。また、民間機全機開発に必要な知識（ARP4754、Door Software, WBS, RBE など）も得ることができました。今後も民間機開発の分野に携わりますが、管理業務、および海外企業との調整、交渉業務などの中で得られた知識を活かしていきたいと思います。また、午後の演習では毎週 1 分間スピーチを行ったことで英語を人前で話すことへの抵抗が減りました。
5	航空機全般について、市場規模から各開発現場からの生情報まで幅広く知識を得られたことで、全体の各工程の実際の状況を知ることが出来、今以上に広い視点を得ることが出来た。 自分は多く部門をまたがる技術プロジェクト担当だが、関係者（ステークホルダー）が非常に多く専門外の分野についての理解が足りていなかったが、GPL で学んだ航空機全般の知識からよりステークホルダーの状況を理解（想像）することが出来た。こうした開発全般を俯瞰する知識を身につけたことで、今まで以上に他部門と深いコミュニケーションを図れるよう活用したい。 英語については、1 分間スピーチにより、英語で時間内に論理的に伝える力を身につけることが出来たが、こうした力は日本語の会議でも同様に活用したい。
6	海外の対応はないので、効果は分からないが、午前のセッションや午後のセッションの作業の進め方、問題の解決方法は早速活用している。　作業チーム内では、私がチェアマンとなり円滑にミーティングを行うことが出来ている。
7	英語に関しては、今回の講座で Speaking に慣れることができたが、自由に操るレベルには遠いため引き続き学習したい。また、日本語で理　解不足なものは英語でも咄嗟に説明できないことを体験したため、日本語で物事を十分理解するよう努める。

8	上記設問は、確認できない為、空欄にさせていただきます。 本講座の成果の活用という点に関しましては、幅広く教えていただくことにより、航空機業界の全体的な動きをイメージできたことが大変有意 義でした。本講座の教科書も今後の実務で役立つと考えております。
9	我々は、装備品メーカであるため、これまで機体レベルの設計・製造技術や問題点などについて、十分知る機会がありませんでしたが、この講座を受講して、機体レベルの技術的な内容や問題点について知ることができたので、機体メーカ側の観点を取り入れた技術提案に役立てることができると考えています。また、現在、FAA や EASA の認証取得に向けて活動を行っていますが、ARP4754 の考え方や問題点について学ぶことができたので、DO-178 や DO-254 の更なる理解に活用することができました。
10	プロジェクトを円滑に進め、まとめていく手法が身に付き、今の仕事のためになっている。
11	安全性解析に携わっているが、ARP4754A や開発保証の深い部分を知れた意味で、自分の業務の位置づけ、重要と考えるべきポイントが見えてきた。 また職場に外国人が多く、英語を話す度胸がついた意味でかなり効果があった。
12	世界の中での日本の航空機産業の現状や展望など、自分の日常業務や会社だけを見ていては、決して知ることができなかったスケールの大きな内容を学ぶことができました。そして視野が広がり、物事を大きく捉えられるようになりました。 今後の業務では、物事を狭い視野で考えるのではなく、高い視点で捉えて、提案や決断ができるようにしていきたいと思っております。
13	・航空機開発に関する知識の定着 ・プロジェクトマネジメントの研究への適用 ・プロジェクトマネジメントの私生活管理への適用 を行っていく所存。

（3）カリキュラムの内容・量について

【航空機開発・プロジェクト関連】　　（ ）内は講義 No.

	A:不足している	B:適切である	C：過剰である	d:不要である
(1)航空機関連産業の現状課題と将来動向（第１回）	4	18	0	0
(2)航空機開発の特質（第2回）	4	18	0	0
(3)航空機の認証に関するRegulationsとガイドライン (第3回)	5	17	0	0
(4)品質管理と特殊工程（第4回）	5	15	0	0
(5)商品企画と開発の流れ（第5回）	8	11	2	0
(6)航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント（第6回）	7	13	1	0
(7)航空機開発手法（第7回）	3	17	1	0
(8)開発手法の傾向（第8回）	5	15	2	0
(9)プロジェクト・マネージメント（第9回）	7	13	1	0
(10)開発計画の管理（第10回）	8	10	3	0
(11)SEとRequirement Based Engineering（第11回）	4	15	0	1

【International Communication 関連】（ ）内は講義 No.

	A:不足している	B:適切である	C：過剰である	d:不要である
4(1)Cross Culture Communication（第１回）	4	18	0	0
(2)Presentation Skills & Exploring Culture（第２回）	5	17	0	0
(3)KAS1:Physical vs Digital Mockups（第３回）	4	18	0	0
(4)Business MGMT Skills & Exploring Culture（第４回）	3	18	0	0
(5)KAS2:Wing Skin（第５回）	5	14	2	0
(6)Meeting Skills & Exploring Culture（第６回）	3	18	0	0
(7)KAS3:Aliminum vs Composite Materials（第７回）	5	17	0	0
(8)Negitiation Skills & Exploring Culture（第８回）	5	15	2	0
(9)KAS4:Spoilers（第9回）	5	15	1	0
(10)Review & KAS Set Up（第10回）	5	16	1	0
(11)KAS Practice in Groups（第11~14回）	9	13	0	0
(12)KAS Practice in Groups リハーサル（第15回）	8	14	0	0
(13)成果発表（第15回）	4	18	0	0

	受講生自由記述（カリキュラムの内容・量について）
1	<International Communication> ・各 Skill(Meeting や Negotiation 等)の演習をもう少し確保してはどうかと思いました。 （+1hour くらい） ・Final Presentation の Preparation の時間は適切と思います。（P→D→C→A の４コマ程度）

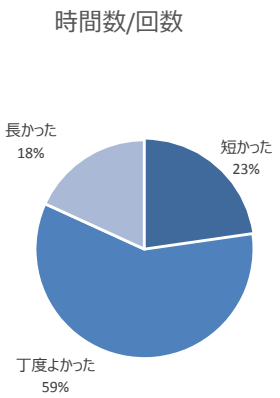
（4）開講期間および開催日について

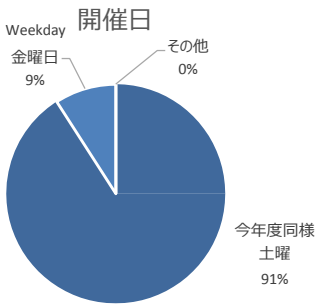
ｉ）期間 75 時間/15 回

短かった	丁度よかった	長かった
5	13	4
22.7%	59.1%	18.2%

ii）開催日

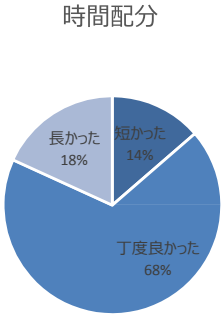
	今年度同様 土曜	Weekday 金曜日	その他
22	20	2	0
	90.9%	9.1%	0.0%





ⅲ）75 時間/15 回（午前 2HR、午後 3HR）の場合

短かった	丁度良かった	長かった
3	15	4
13.6%	68.2%	18.2%



	受講生自由記述（開催期間・開催日について）
1	毎週ではなく各週の方が、もう少し余裕を持って受けることができると思います。 最後の発表前の準備は時間が足りないと思いました。
2	午後は 0.5～1H プラスでも良いかもしれません
3	全 15x5 時間は受講生としては長く感じるが、講座の内容のボリュームからみればやはり時間が足りない。教材には各講座のプレゼンテーション資料がまとめられているが、読んでも説明が無ければ理解できず、後日見ても参考にできないものがある。そのため、資料集ではなく、教科書のように体系的に纏め、後日見ても理解できればさらに役立つと思う。
4	講座の内容としては 75 時間/15 週は適切だと思いますが、毎週土曜日を丸一日研修に取られてしまうのは大変でした。3 週間に一回くらいの割合でも休みの週を入れて頂けると負担が減ると思います。
5	総学習時間 75 時間は必要十分な時間として妥当に感じました。ただし、出席回数が多く感じたので、回数を 10 回程度にして、講義を 9：00-17：00（7 時間）にすると受講生の負担が減ると思います。
6	内容は丁度良かった、期間は長いと思っていたが、今にして思えば丁度良い。 開催は、プライベートな用事があり、土曜では休む事がある。作業の状況にもよるだろうが Weekday の方が良いのかもしれないと思った。
7	設計や工作について、実務的な話も面白かったが、（大学で教えているだろう）基礎的かつ体系的な講義もあってほしいと思う。基本的な考え方ができていないと応用もきかないと思われるため。特に航空産業においては、生産技術の部分の重要度が高いように思われるが、かなり見えにくい分野でもあるように思われる。ここを体系的に整理した講義があってほしいと感じた。また、最後の演習に関しては、あと 1 ～ 2 回ないと時間が不足すると感じる。
8	一般従業員の場合、残業扱いで土日の講義に参加すると、通常勤務における残業時間が不足する場合があるため、自己啓発として参加してもらうことになります。その場合、組合の承認が得られない場合があるので、できれば weekday での開催を希望します。
9	繁忙期と重なる場合、毎回の参加が難しい場合もあるが、これを除けば、妥当な期間、開催日と感じる。
10	チームでの作業（final に向けての）中、先生方がアドバイスしてくれたが、それがチーム内議論を中断することもあった。 準備は丸々3 日間くらいふりーにやらせてほしかった。
11	7 月、8 月に夏休みがありましたので、ありがたかったです。
12	AM が短く、PM が長かった。逆が丁度良いと感じた。
13	受講時間内に成果発表の準備をするのは大変だった。 でもそのおかげで連絡をグループ内で取るようになりコミュニケーションが良くなった。
14	リーディングの学生には、chubusat プログラムもあり、きつく感じることもあったが、収穫は大きかった。
15	午前・午後共に 1 時間ずつ短い方が集中して授業を受けれると思った。
16	遠方からいらっしゃっている人がいると思うので難しいと思われるが、朝 9：00 開始で行ってもいいと思います（学生は特に）。 また、英語表現については、NICE Net の文章を ECC の講師の方が添削してくださると有用だと思います。

（5）成果発表の感想

	成果発表の感想(自由記述)
1	今回私たちが選んだテーマは、シチュエーション決めが難しく、どのように Discussion するか、どのように観客にみせるかというところにかなりの時　間がかかりました。Team みんなで集まって話し合いできる時間が少ない中でみんなが努力し、そのような状況の中でベストな発表ができたと　思います。 個人的にも適度な緊張感の中で、落ち着いて発表に臨めたので良い経験になりました。
2	英語でコミュニケーションを行う度胸がつきました。
3	実戦形式の成果発表は受講生にとっては良い経験になるので、いい方法だと感じた。ただ、講座中に与えられる準備時間がやはり短かったこと、受講生は同じ会社ではないため、平日は集まれないことから、内容にレベルを高めることはできなく残念だった。ただ、実際のプロジェクトでも限られた時間・人・情報で結果を出すことが求められるので、その点でも良い経験となった。次回の講座では、成果発表会の進行・テーマはもっと早い段階から示した方がよいと思う。これにより、そのテーマを見据えてより具体的な意図を持って注意深く受講でき、成果発表のレベルをより高められると思う。
4	大勢の参加者の前で英語を話すことができ良い機会だったと思います。課題によりバックグラウンドの資料が充実したものと、そうでないものがあったと思います。私のグループはバックグラウンドの資料が少なく、序盤で議論のポイントを作るのに苦労しました。（話が迷走してしまうことが多かったです。）全ての課題でもう少し背景を充実させて頂けたら、このような迷走を避けることができると思います。
5	①成果発表会直後に、有識者パネルディスカッションを実施していましたが、パネルディスカッションは修了式の成果報告会後の方がよかったと思います。会社の上司は、GPL の様子（具体的な講義内容や雰囲気）を知らないため、この状態で「今後の GPL はどうあるべきか？」と問われても答えづらいと思います。 ②事前にアダム先生から成果発表会の採点基準が示されていましたが、その採点結果のフィードバックはされるのでしょうか？ ③成果発表会のリハーサルが足りなかった気がします（本番ではリモコンが使用できなかったなどトラブルなど）
6	一番勉強になった。
7	貴重な経験ができた。 自分で上手くいった部分、課題を見つけて次につなげたい。
8	これまで英語かつ Negotiation の形式で発表を行ったことが無かったため、非常に良い経験となった。また発表テーマも概要のみが提示される形なので、発表の準備の過程で様々なシナリオが出てきてグループ内での議論が活発に行われ、勉強になったと同時に楽しむことができた。一方、詳細なデータはテキストに準備されていたが、発表テーマに関する知識が不足していたため、日本語でも難しい内容を英語で行うことに大変苦労した。講座で紹介のあった咄嗟に適切な言葉がでてこない場合にも沈黙を避ける技術を磨いて行きたい。
9	ビジネススクールでもグループスタディを重視しているときくが、実際のところ、このようなグループワークで学ぶことは多いと思う。これを最初から、繰り返し行ってもよいのではないかと思う。
10	来賓を迎えての発表である以上は、それなりに体裁を整える必要がある為、事前のシナリオが必須と考えました。しかしながら、結果、演劇になってしまったきらいがあるように感じました。
11	成果発表が受講生同士で行われたなて、どうしてもストーリーを事前に作ってしまう傾向があり、会議というよりは、演劇に近い形になっていたように思います。受講生 vs 英会話講師などの situation に設定し、自由な話し合いができればよかったと思います。
12	あっという間でしたが、思ったより楽しくできた気がします。プレゼン能力向上の必要性を痛感しました。
13	練習、準備ともに短い期間で実施する必要があり慌ただしかったが、無事終了できた。 テーマは初めの方の講義から決定していれば、内容理解も深く出来たのではと感じる。
14	チームのメンバーで協力し、何度も練習した甲斐あって、今までの研修の成果を発揮できたと思います。 ただ、成果発表会の準備時間が短かったように思います。メンバーで集まれるのは土曜日しかないため、最後の数週間は夜中に自宅でメールのやり取りをしながら、資料つくりや調整を行いました。もう 1 回分、集まって話し合える時間が取れましたら、もう少し余裕を持てたように感じました。

15	多くの人前でスピーチする機会が少なかったので、トレーニングの良い機会になりました。特に英語で考えていることを伝えるための方法が役に立ちそうです。
16	予想外の質問が来て、逆に想定していたことが聞かれなかったことにおどろいた。
17	普段からリーディングでタスクが多く、常にオーバーワーク（特にフロンティア宇宙プログラムは他のリーディングプログラムよりタスクがひどいと言わ　れている。）であるのに、成果発表の直前まで、国際学会、出張と他手続きにあったため、チームの皆さんには大きな迷惑をかけてしまった。　しかし、チーム皆さん・英会話講師のフォローで何とか乗り越えられることができた。 本当にこのプログラムをやってよかったと実感した。
18	まだ学生なので、慣れないミーティング・ネゴシエーションの実践でしたが、だからこそ、より多くのことを今のうちに経験出来てよかったです。
19	緊張した。
20	先生や会社の上司の人たちの前で発表するプレッシャーを感じることで、緊張感をもって過ごすことができ、チームでまとまっていく、よりよい発表にしていく姿勢がみられるようになってよかったと思う。

（6）事務局・講師に対する意見

	講師・事務局に対する意見（自由記述）
1	林先生、Adam 先生、また講義や成果発表をサポートしてくださった先生方や事務局の方、ありがとうございました。このセミナーで得た情報　は多く、受講生は皆満足していると思います。今後もこのセミナーが続くことを願っています。
2	５ヶ月間ありがとうございました。
3	ご多忙の中、講義/諸作業に時間を費やしていただきありがとうございました。
4	分厚い資料集について、目次が最初にあるものの目的の資料がどこにあるかわかりづらいので、工夫してもらいたい。
5	タイムリーに E-mail でご連絡を頂き助かりました。ありがとうございました。
6	4 か月の長期に渡り、熱心に教育頂きありがとうございました。学んだことを存分に活かしてグローバルに活躍する所存です。一点、運営面で　気になったことがあります。講義中に名大講師陣の私語が目立ちました。改善を要望します。
7	わかりやすく為になる話が多かった。事務局の対応も良く、不自由なく受講できた。
8	長い間、様々なことを教えていただきありがとうございました。 学んだ次の週から実作業に取り入れて、自分の中では、成果となっています。 作業の考え方やとらえ方が変わりました。問題を分割して原因をつきとめたり、作業の全体を見ながら進める事が出来る様になりました。
9	One-minute-speech 等を課す場合に、講義の終わりに課題の確認があると良いと感じた。（今回、ペア/グループワークから曲のリスニング　に移り、その後そのまま解散ということがあったため。）
10	今回あらためて社会人教育というのが必要であることと、その機会が少ないことを感じた。他産業からくると、なかなか航空業界のことはわからない。その点でこの講座は有益であった。テキストのケーススタディにしても、これだけ航空産業に密着したものはないと思う。航空産業には今　様々な人が流れ込んで来ていると思う。そういう人たちが航空産業の基礎を学ぶ場は必要であると思う。今後も継続して行ってほしい。また、これ以外でも、大学は、もっと様々な社会人教育の場を提供してほしいと思う。
11	本講座は若手、中間層、ベテランの何れをターゲットにしているのか、明確にしていただけたら、次回以降、一層有意義になると感じました。

12	機体レベルの話を聞けたことは、非常に有益でしたが、話が完全にプライムよりとなっていたため、できれば装備品メーカーの DO-178、DO-　254 や NADCAP への取組みや、中小企業の観点から見た民間航空機産業進出への問題点などの話があると良かったと思います。
13	丁寧に案内頂いて分かり易かった。
14	ありません。 約４か月、お世話になりました。
15	成果発表会では大学側が撮られた、集合写真や発表・スピーチの動画をいただけると、大変ありがたいです。 成果発表会に参加できなかった他の上司にも見せ、今回の成果を報告したいと考えております。また来期以降、この講座への参加を考えている他の社員にも紹介したいと考えております。 どうぞよろしくお願いいたします。
16	発言しやすい雰囲気で大変学びやすい環境でした。ご指導有難うございました。
17	最終日まで本当に迷惑をかけてしまったが、先生方が信じてくれたおかけで、何とか最終日まで乗り越えられることができた。ありがとうございました。
18	One minute speech がとてもためになりました。 ビデオで発表を撮って、Onedrive などにあげるなどして、ビデオで復習できるとより復習がはかどると思いました。
19	2 年間ありがとうございました。(本受講生は 2 度受講)
20	大学院生や社会人が受講生のため、時間的余裕やモチベーションにおいて差異が存在するが、英語の学習については、時間外課題を additional で与えていただけると全体にレベルの底上げに繋がり良いと思う。

平成 26 年度　GPL 講座　会社上司向けアンケート集計報告に基づく改善案

評価・改善内容	適用分野	アンケートからの参考コメント

1.GPL 講座に関する御社の取組み

1-1　会社側の位置づけおよび支援

(1) 位置付け（GPL 講座「中堅・上級社員を対象とする航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成」の趣旨に沿って）

重要な教育プログラムと認識する企業が72%と多　数。本講座の目指すところとするので講義内容・手法　等を持続する。		

(2) 授業料 25 万円/人について

受講料：高いが 22%、適切が 67%、平均すると￥150,000　が妥当との意見あり。受講生の評価より　は寛大な結果。 所属する企業が受講料を支払うケースが94%と多く、　それほど個人負担とはならないので、授業料はそのままとする。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	

(3) 授業料・受講時間に関する御社の支援

ｉ）授業料

全額企業負担するところが 94%と高い。		

ⅱ）就業時間扱い（含：休日残業扱い）

自己啓発による研修として取り扱われているケースが　過半数。		

ⅲ）交通費

特記事項なし		

(4) 開講期間について：75 時間／全 15 回

時間数/回数は 94%が丁度よいと大多数の回答、　6%が短いと少数意見なため現状維持とする。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	
応募期間を早め（遅くとも１月）に実施し、開催期　間も通年通りとする。 内容を深く掘り下げるという意見と回数を 11 回に減ら　す意見がでたのでカリキュラム計画時の参考とする。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	長い期間、毎週土曜日に講座があり、本人も大変だったと　思いますが、日程的には早めに発表していただいた事と例　年通りの日程のため、調整が付きやすかったと思います。 75 時間については、適当であるが、回数を 11 回程度にして　はいかがか。

(5) 講座開催曜日について

開催日は土曜日がよいが 83%と大多数なため来期も 土曜日開催とする。		
平日は通常業務があり参加が難しい、との意見が多 い。 又、予習等ができるよう、隔週の実施を検討してほし い意見があり、カリキュラム計画時に検討する。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	

1-2 御社の本講座参画の意図および位置づけに係る見解の自由記述

実例を含めた授業内容を含むため、現行の目標設定のまま過不足なく基礎能力向上を目指すこととする。 カリキュラム内容にほとんど過不足なし。 コストマネージメントの講座追加を検討する。英会話講師の増員を要望する企業があった。個人的にアドバイスできるよう講師に要請する。	講義内容 応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	一通りカバーされていると思います。 コストマネージメントに関するカリキュラムもあれば、更に充実できるかと思います。
		ビジネス英語講師の増員を希望します。

2. 目標の達成度・受講評価

受講生の動機づけにより提案や決断を自発的に行う ようになった、との上司意見が83%あったので従来の 内容で継続していく。		受講生が自発的に提案・決断を行うようになった。
成果は直ぐには表れていないが自発性が出てきたとの 意見が多い。人前で意見が言える様になった、との評 価もある。		

3. 成果発表を聴取されたご感想

修学の成果が見える発表会であったとの意見が多いの で今後もこの形式で発表会を実施していく。		

4. 次年度講座に対するご要望

講義で学んだことを自らが述べる形も良いのではない か、という意見があり、発表形式を検討してみる。	発表会要領	最終講義について、前回や今回は役割を与えられ自分の 思いとは異なる内容を述べていましたが、例えば、3～5 の テーマに沿って、講義で学んだ事をベースにそれぞれが自ら 意見を述べる形も良いのではないでしょうか？
来期は 21～27 名の応募がありそう。		来年の受講予定者数

5. 事務局に対するご意見

受講料の支払い期間が短すぎたとの意見があり、１か月から２か月関の支払い期間を設ける様に計画する。アフター・セール・サービスの項目も課題に入れることを検討する。	講義内容 応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	本年度の受講料の支払において締切までの期間が短いように感じました。社内の手続きに時間を要する場合がございますので、期間的な余裕（ひと月程度）がありますと助かります。
		機体の運航に伴うアフター・セール・サービスの知識も必要ではないか？

平成 26 年度　GPL 講座　受講生アンケート集計報告に基づく改善案

改善内容・適用内容	適用分野	アンケートからの参考コメント

1．全般情報について

①所属区分

特記事項なし		

②勤務先所在地

特記事項なし		

③会社規模（従業員数）

特記事項なし		

④受講生の職種

特記事項なし		

⑤受講生の勤続経験

特記事項なし		

⑥受講生英語レベル（TOEIC 換算）＊講座申込時のデータにて作成

受講者バックグラウンド： TOEIC550 点以上という設定は妥当と考える。 理由：今回の受講生は 550 点を切る者が 15%程度いたが最終日の成果発表では問題なく発表できていたため。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	

2. GPL 講座に関する会社支援について

（１）授業料 25 万円/人について（受講内容･成果との対比価値）

受講料：高いが 41%、適切が 59%、平均すると￥150,000 が妥当との意見あり。所属する企業が受講料を支払うケースが 78%と多く、それほど個人負担とはならないので、授業料はそのままとする。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	

（２）所属会社からの支援について

特記事項なし		

3. 講座内容および今後の活用に関する質問

討論する内容についての協議に時間がかかっていたようなので、課題の説明を行ってから演習を行うこととする。 補助資料検討	講義方法改善 補助資料 教材改善	KAS1:Physical vs Digital Mockups
課題説明に時間をあまり費やさなかったため、教材に沿った解説を実施する。 教材はそのままとして、これに沿った説明を実施する。	講義方法改善	Business MGMT Skills & Exploring Culture

（１）講座において得られた知識･経験

講座テキストは上級者レベルに設定し、講義やＱ＆Ａで噛み砕いて説明する方法は 91%の賛同を得られたので、教材レベルや講義、Ｑ＆Ａのやり方は来期も同等のものとする。		
Cross Culture Communication の演習と課題がカリキュラム通りでないケースがあったため、来期の講義　演習は出来るだけ教材に沿った形で実施するようにする。	講義方法改善（英会話）	後半の講座では、スケジュールが連絡なく変わって予習がしづらかったです。突然 Discussion, Negotiation しろと言　われても、内容が把握しきれていない、終着点が頭の中で描けていない状態でやるのは難しすぎると感じました。 来週はここをやるなどの事前連絡がほしかったです。
Debriefing　Sheet は継続する。	講義方法持続	･講座テキスト類のレベルについて、現状維持/もしくはさら　なる向上が望ましいと思います。 ･Debriefing Sheet は、口語の理解度確認と疑問を先　延ばしにしない（その場で解決する）姿勢/習慣を身に付　ける面で継続すべきと思います。 ･英語力向上と受講生間のコミュニケーションツールとして、NICENET は良かったと思います。
英語の講座では次回の課題の案内と必要に応じて宿　題等を与える。	講義方法改善（英会話）	講座後半の英語の講義について、翌週の講義がスムーズに　進むように翌週内容を予習させるような宿題･課題を与える　とより効果的になると思う。 受講者が教科書を読むのに時間をとられてしまうことがあり　勿体なく感じる。

英語の講座で、午前中の知識を使えるような演習を　考慮する。	講義方法改善（英会話）	テキストに難しい点があっても講座で受講生の質問に適宜　答えて頂いていましたし、翌週の Q and A でもフォローして頂いたので、講義内容はよく理解できたと思います。 強いて意見を述べさせて頂くなら、午後の英語の演習では午前中の講義内容とは直接は関係のない内容が多かった　と思います。午前中に得た知識を午後の演習で直接使えると知識の定着もより良くなると思いました。
歌詞のディクテーションは不要。	講義方法改善（英会話）	Q&A は、この講義で最も有意義で参考になりました。 午前中の講義資料のレベルは適切、午後の英語テキストは受講生の英語レベルの平均値を考えると、ややレベルが高いと感じました（個人的には適切と感じました） 上記に示された GPL の目標から考えると、成果発表会のようなロールプレイを全 15 回の講義の中で、数多く実施してとにかく身につけることが重要かと思います。 歌詞のディクテーションは講義内に実施する必要性は感じませんでした。 英語ゲームは、Ice　Break としての必要性有り。 また、多文化コミュニケーション（例：フランス人は日本人　同様にリスクを嫌う）の講義は、受講者にはレベルが高すぎると感じました。
キーワードに説明を追加。 教材を見返し、解説を加える等改善を検討する。	教材・補助資料準備	テキストの内容は、講義中に説明してくれるので、講義中は良いが帰宅後に見返しにくかった。聞き逃したら、分からなく　なってしまうので、キーワードは説明を入れるなりして欲しい。
Debriefing Sheet は継続する。	講義方法持続	疑問点があっても、Debriefing　Sheet　により次の講義時に確実に回答をもらえたので、今回の手法は良いと思います。
文化の違いを専門的な講師に説明してもらうことを検討する。	講師	異文化の理解に関しては、文化人類学者による講義があると良いのではないかと思う。 また、映画・ドラマ・インタビューなど、実際に目で見える例を題材としたほうが、文化の違いは分かりやすいのではないかと感じた。 テキストの文化比較は、主にアンケートによっているように思ったが、それはそれぞれの国の人の「自画像」の違いは反映しているが、必ずしもそれが本当の文化の違いを反映しているとは限らないのではないかと思う。 更に言えば、文化の違いには、国の違いだけでなく、産業の違いによるものもある。 これらを考えると、文化の比較を専門とする人による講義があってよいと思う。 交渉に関しても同様に、交渉を専門的に研究している人が大学にはいると思うので、そういう専門的な観点からの講義が 1 回はあって良いと思う。
英語演習時に Situation や役割を講師が設定し演習自体に時間が使えるよう演習を検討。	講義方法改善（英会話）	International　Communication の KAS において、まず、自分たちで situation を設定してから、negotiation に入る内容となっていましたが、situation は予め設定していただいた方が、negotiation の方に集中できたと思います。

テキスト以外の講義補助資料もあらかじめ準備しておくことを検討する。	教材・補助資料準備	後半について。 講義自体はわかり易く、ポイントを繰り返し伝えていただけたので良かったが、テキストと異なる内容
テキスト作成者が講義に出席することを検討。	講師	講義に対する質問に対して、次の講義で毎回丁寧に説明して頂き、大変ありがたかったです。 ただ、英語のテキストについて 1 点改善点をお伝えさせていただきます。テキストの作成者と講師が異なっていたため、テキストのレベルと、実際の授業のレベルにギャップを感じる部分がありました。テキスト作成者も講義に出席するなどして、実情を把握されたうえでテキストを作成された方が、より良くなると感じました。
テキストを教材と参考資料で分冊化する。	教材改善	遠方から通う為テキストが厚く重かった。 データないし小分けにして頂けると有難かった。
1 分間スピーチは有効なので来期も実施。	講義方法持続	元々専門分野が異なるので、内容によっては理解するのに時間がかかったが、かみ砕いての説明があったので分かり易いと感じることがあった。 英語は自分の中で、1 分間スピーチの占める割合が大きかった。
デブリーフィング・シートを来期も活用。	講義方法持続	多くの人々が意見しているかもしれませんが、勉強時間が足りなかった様な気がします。 また、学生と社会人との間の予備知識の差が大きいため、 せっかくの講義時間中に「ただ聴いているだけの時間」がみられました。ただ、デブリーフィング シートでの回答で、定着させる方式も有効と思われます。

（2）講座の狙い・目標の達成度

講座の狙う能力達成・動機付け・手法の認識は効果があったと考えられるため、来期も本年度と同様な方針で講座を実施する。		
テキストの分冊化を実施。	教材改善	午前の講義の内容は、全て面白くとても勉強になりました。 しかし、使用するテキストが毎回重かったです。可能ならば、もう少し分割して欲しかったです。
装備関係の講義内容追加を検討。	講義内容検討	技術系講師に構造出身の方が多く見られましたが、今後シ　ステムインテグレーションが重視される面からも、装備（システム設計） 出身の方も起用されてはいかがでしょうか。
教材の目次とページを改善	教材改善	英語の講義は、テキスト通りに進めないとした時に、その旨をアナウンスしてほしかったです。どのように予習したらよいかこ　ちらはわからなかったです（当方も Q&A を通して、お伝えす　べきでした）。 また、午前のテキストは、分厚すぎるので分割してください。 また目次にページ番号がなかったので、あまり目次の役割を果たしていませんでした。
テキストの分冊化を実施。	教材改善	午前の講座のテキストは講義で使用する部分とAppendix　部分で分かれていると一層便利。

演習ゲーム等実施する場合は少人数化する。	講義方法改善（英会話）	英語の講座自体は、個人で学習できる内容は各自が家で行うこととし、講座内では、会議や交渉など相手がいないと できない内容に絞ったほうがよいと思う。 １分間スピーチに関しては、文章の添削があったほうが良い と考える。 最後の KAS の Wing Skin では、メンバー構成が元々テキストに記述された設定から変わったが、それによりいろいろと混乱を感じた。 テキスト自体は元々想定した前提にもとづいて作成されているはずであるし、複数の人間の認識を短い時間で会わせるためには、指示において、突然の変更は避け、なるべくテキストに沿って行うほうがよいと考える。 あるいはもし変えるのであれば、テキスト自体から変えるのが よいと思う。 講座内におけるゲームについては、５～６人程度のグループであればよいが、２５人では不適であろうと思う。やるなら グループを分けて行ったほうがよい。 なお、グループ分けを考えると、定員は２５人ではなく２４人が適切ではないかと思う。 あと、もしモノポリーの航空産業版があれば、ゲームで交渉を学ぶという点で役立つのではないかと思った。（開発するのが難しいと思うが）
		航空機開発・プロジェクトの講座では、テキストだけでなく、 実際に直面している話を生々しく聞くことができたのが非常に良かったです。 英語の１分間スピーチは全員が参加でき、さらに徐々にステップアップしていたので効果的でした。是非、次回も続けていただければと思います。
Negotiation 演習の時間を確保する。	講義方法改善（英会話）	全体的によかったが、Negotiation の内容理解、また、ラストの発表準備時間が少し短かった。
体験談や苦労話は貴重という意見があり、引き続き 講義内容に盛り込む。	講義内容維持	講義中に話して頂いた、先生方の迫力ある生の体験談や苦労話は貴重でした。 また少人数での英語によるディスカッションや、交渉の疑似体験を何度も行うことを、英語でやり取りしながら、自分の 考えをまとめ、それをその場で表現する力が鍛えられました。
略語集・キーワード解説等の作成を検討する。	教材・補助資料準備	略語や専門用語をまとめた用語集のようなものを作っていた だけると、「ちょっとわからない」ときにすぐに調べられていいと 思います。 また、スライドをテキストにすると、大分分量が大きくなってしまうので、Word への変換がいいと思います。

（3）カリキュラムの内容・量について

受講成果として受講者本人としては実作業の仕方にメリハリがつき、自発的に提案・決断が出来る様になったとの自覚があったようなので、講座は効果があったと思われる。		
		本講座の成果の活用
		自分の作業だけではなく、チームさらには課全体の作業を見渡し、判断できるように今後心掛けていきたいと思います。 また、海外の方と Discussion する機会が毎週あるので午後の講義で教わった Discussion, Negotiation の仕方を思い出しながら、徐々に習得していきたいと思っています。
		・プロジェクト管理/作業展開等に WBS(ソフト:OpenProj)を積極的に活用 ・Meeting やネゴ時、より目的を明確に、戦略を Logical に立てて実行する（自分が主体・コントロール） ・社内のエアツールを再確認 ・出張前に報告書を作成するよう心がける
		普通の業務では Boeing との英語の会議に出る機会が少なかったため、英語でやりとりすることに抵抗があったが、本講座で英語でやり取りする機会が増え、英語の会議でも発言できる自信になった。
		今までは自分の仕事を担当者の視点でしか認識していませんでしたが、講座を通してもっと大きな視点（マネージャー、会社、社会）から再認識できました。また、民間機全機開発に必要な知識（ARP4754、Door Software, WBS, RBE など）も得ることができました。今後も民間機開発の分野に携わりますが、管理業務、および海外企業との調整、交渉業務などの中で得られた知識を活かしていきたいと思います。 また、午後の演習では毎週 1 分間スピーチを行ったことで英語を人前で話すことへの抵抗が減りました。
		航空機全般について、市場規模から各開発現場からの生情報まで幅広く知識を得られたことで、全体の各工程の実際の状況を知ることが出来、今以上に広い視点を得ることが出来た。 自分は多く部門をまたがる技術プロジェクト担当だが、関係者（ステークホルダー）が非常に多く専門外の分野についての理解が足りていなかったが、GPL で学んだ航空機全般の知識からよりステークホルダーの状況を理解（想像）することが出来た。こうした開発全般を俯瞰する知識を身につけたことで、今まで以上に他部門と深いコミュニケーションを図れるよう活用したい。 英語については、1 分間スピーチにより、英語で時間内に論理的に伝える力を身につけることが出来たが、こうした力は日本語の会議でも同様に活用したい。

		海外の対応はないので、効果は分からないが、午前のセッションや午後のセッションの作業の進め方、問題の解決方法は早速活用している。 作業チーム内では、私がチェアマンとなり円滑にミーティングを行うことが出来ている。
		英語に関しては、今回の講座で Speaking に慣れることができたが、自由に操るレベルには遠いため引き続き学習したい。また、日本語で理解不足なものは英語でも咄嗟に説明できないことを体験したため、日本語で物事を十分理解するよう努める。
		上記設問は、確認できない為、空欄にさせていただきます。 本講座の成果の活用という点に関しましては、幅広く教えていただくことにより、航空機業界の全体的な動きをイメージできたことが大変有意義でした。本講座の教科書も今後の実務で役立つと考えております。
		我々は、装備品メーカであるため、これまで機体レベルの設計・製造技術や問題点などについて、十分知る機会がありませんでしたが、この講座を受講して、機体レベルの技術的な内容や問題点について知ることができたので、機体メーカ側の観点を取り入れた技術提案に役立てることができると考えています。 また、現在、FAA や EASA の認証取得に向けて活動を行っていますが、ARP4754 の考え方や問題点について学ぶことができたので、DO-178 や DO-254 の更なる理解に活用することができました。
		プロジェクトを円滑に進め、まとめていく手法が身に付き、今　の仕事のためになっている。
		安全性解析に携わっているが、ARP4754A や開発保証の深い部分を知れた意味で、自分の業務の位置づけ、重要と考えるべきポイントが見えてきた。また職場に外国人が多く、英語を話す度胸がついた意味でかなり効果があった。
		世界の中での日本の航空機産業の現状や展望など、自分の日常業務や会社だけを見ていては、決して知ることができなかったスケールの大きな内容を学ぶことができました。そして視野が広がり、物事を大きく捉えられるようになりました。 今後の業務では、物事を狭い視野で考えるのではなく、高い視点で捉えて、提案や決断ができるようにしていきたいと思っております。
		・航空機開発に関する知識の定着 ・プロジェクトマネジメントの研究への適用 ・プロジェクトマネジメントの私生活管理への適用 を行っていく所存。
内容・量的には過半数以上が適切との評価であるが、不足しているとの意見もあるので教材・講義内容の改善を検討する。	教材改善 講義内容 改善	航(5)商品企画と開発の流れ
内容・量的には過半数以上が適切との評価であるが、不足しているとの意見もあるので教材・講義内容の改善を検討する。	教材改善 講義内容 改善	航(6)航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント

内容・量的には過半数以上が適切との評価であるが、不足しているとの意見もあるので教材・講義内容の改善を検討する。	教材改善 講義内容改善	航(9)プロジェクト・マネージメント
内容・量的には半数近くが適切との評価であるが、不足しているとの意見もあるので教材・講義内容の改善を検討する。	教材改善 講義内容改善	航(10)開発計画の管理
内容・量的には半数近くが適切との評価であるが、不足しているとの意見もあるので教材・講義内容の改善を検討する。	教材改善 講義内容改善	I (11)KAS Practice in Groups
内容・量的には半数近くが適切との評価であるが、不足しているとの意見もあるので教材・講義内容の改善を検討する。	教材改善 講義内容改善	I (12)KAS Practice in Groups リハーサル
内容・量的に適切であるとの評価。 来期も同内容量とする。		I (13)成果発表
演習時間を確保する	講義内容改善	<International Communication> ・各 Skill(Meeting や Negotiation 等)の演習をもう少し 確保してはどうかと思いました。 （+1hour くらい） ・Final Presentation の Preparation の時間は適切と思 います。（P→D→C→A の 4 コマ程度）

（4）開講期間および開催日について

期間：75 時間/15 回は適当が過半数、短かったが 23%、長かったも 18%、という結果であり両端がほぼ 同等数であるので従来通り来期も 75 時間/15 日とする。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	
開催日は土曜日がよいが 91%と大多数なため来期も土曜日開催とする。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	
時間数（午前 2 時間、午後 3 時間）は 68%が丁度 よいと回答、短かったと長かったがほぼ同数でわれているため、来期も午前 2 時間、午後 3 時間で実施する。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	
		◆意見記述
		毎週ではなく隔週の方が、もう少し余裕を持って受けることができると思います。最後の発表前の準備は時間が足りないと思いました。
教材の教科書化を要望する受講者あり、時間をかけて教科書化することを検討する。	教材改善	全 15x5 時間は受講生としては長く感じるが、講座の内容のボリュームからみればやはり時間が足りない。教材には各講座のプレゼンテーション資料がまとめられているが、読んでも説明が無ければ理解できず、後日見ても参考にできないものがある。そのため、資料集ではなく、教科書のように体系的に纏め、後日見ても理解できればさらに役立つと思う。
休校日追加を検討する。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	講座の内容としては 75 時間/15 週は適切だと思いますが、 毎週土曜日を丸一日研修に取られてしまうのは大変でした。3 週間に一回くらいの割合でも休みの週を入れて頂けると負担が減ると思います。

一日 6 時間 13 回、あるいは一日 7 時間 11 回等の講　義構成を検討してみる。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	総学習時間 75 時間は必要十分な時間として妥当に感じ ました。ただし、出席回数が多く感じたので、回数を 10 回程度にして、講義を 9：00-17：00（7 時間）にすると受講生の負担が減ると思います。
この受講生は週日を希望しているが、大多数の受講　者・企業上司が土曜日を希望しているため、来期も　土曜日に実施する。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	内容は丁度良かった、期間は長いと思っていたが、今にして思えば丁度良い。 開催は、プライベートな用事があり、土曜では休む事がある。作業の状況にもよるだろうが Weekday の方が良いのかもしれないと思った。
生産技術の講座内容を検討する。	教材改善・講義内容　改善	設計や工作について、実務的な話も面白かったが、（大学で教えているだろう）基礎的かつ体系的な講義もあってほしいと思う。基本的な考え方ができていないと応用もきかないと思われるため。特に航空産業においては、生産技術の部分の重要度が高いように思われるが、かなり見えにくい分野でもあるように思われる。ここを体系的に整理した講義があってほしいと感じた。ただ、最後の演習に関しては、あと 1 ～ 2 回ないと時間が不足すると感じる。
7 月 8 月の夏休みは次年度も実施。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	7 月、8 月に夏休みがありましたので、ありがたかったです。
午前中の時間数増加が必要か検討。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	AM が短く、PM が長かった。 逆が丁度良いと感じた。
講義時間を 9：00 開始にすることを検討。	応募要領 オリエンテーション資料 カリキュラム	遠方からいらっしゃっている人がいると思うので難しいと思われるが、朝 9：00 開始で行ってもいいと思います（学生は特に）。また、英語表現については、NICE　Net の文章を ECC の講師の方が添削してくださると有用だと思います。

（5）成果発表の感想

		成果発表の感想(自由記述)
特記事項なし		今回私たちが選んだテーマは、シチュエーション決めが難しく、どのように Discussion するか、どのように観客にみせるかというところにかなりの時間がかかりました。Team みんなで集まって話し合いできる時間が少ない中でみんなが努力し、そのような状況の中でベストな発表ができたと思います。個人的にも適度な緊張感の中で、落ち着いて発表に臨めたので良い経験になりました。
特記事項なし		英語でコミュニケーションを行う度胸がつきました。

特記事項なし		実戦形式の成果発表は受講生にとっては良い経験になるので、いい方法だと感じた。ただ、講座中に与えられる準備　時間がやはり短かったこと、受講生は同じ会社ではないため、平日は集まれないことから、内容にレベルを高めることはできなく残念だった。ただ、実際のプロジェクトでも限られた時間・人・情報で結果を出すことが求められるので、その点でも良い経験となった。 次回の講座では、成果発表会の進行・テーマはもっと早い段階から示した方がよいと思う。これにより、そのテーマを見据えてより具体的な意図を持って注意深く受講でき、成果発表のレベルをより高められると思う。
特記事項なし		大勢の参加者の前で英語を話すことができ良い機会だった　と思います。課題によりバックグラウンドの資料が充実したものと、そうでないものがあったと思います。私のグループはバックグラウンドの資料が少なく、序盤で議論のポイントを作るのに苦労しました。（話が迷走してしまうことが多かったです。）全ての課題でもう少し背景を充実させて頂けたら、このような迷走を避けることができると思います。
特記事項なし		①成果発表会直後に、有識者パネルディスカッションを実　施していましたが、パネルディスカッションは修了式の成果報　告会後の方がよかったと思います。会社の上司は、GPL の様子（具体的な講義内容や雰囲気）を知らないため、この状態で「今後の GPL はどうあるべきか？」と問われても答えづらいと思います。 ②事前にアダム先生から成果発表会の採点基準が示されていましたが、その採点結果のフィードバックはされるのでしょうか？ ③成果発表会のリハーサルが足りなかった気がします（本　番ではリモコンが使用できなかったなどトラブルなど）
特記事項なし		一番勉強になった。
特記事項なし		貴重な経験ができた。 自分で上手くいった部分、課題を見つけて次につなげたい。
特記事項なし		これまで英語かつ Negotiation の形式で発表を行ったことが無かったため、非常に良い経験となった。また発表テーマも概要のみが提示される形なので、発表の準備の過程で様々なシナリオが出てきてグループ内での議論が活発に行われ、勉強になったと同時に楽しむことができた。一方、詳細なデータはテキストに準備されていたが、発表テーマに関する知識が不足していたため、日本語でも難しい内容を英語で行うことに大変苦労した。講座で紹介のあった咄嗟に適切な言葉がでてこない場合にも沈黙を避ける技術を磨いて行きたい。
特記事項なし		ビジネススクールでもグループスタディを重視しているときくが、 実際のところ、このようなグループワークで学ぶことは多いと思う。これを最初から、繰り返し行ってもよいのではないかと思う。
特記事項なし		来賓を迎えての発表である以上は、それなりに体裁を整える必要がある為、事前のシナリオが必須と考えました。しかし　ながら、結果、演劇になってしまったきらいがあるように感じました。

特記事項なし		成果発表が受講生同士で行われたなて、どうしてもストーリーを事前に作ってしまう傾向があり、会議というよりは、演劇に近い形になっていたように思います。受講生 vs 英会話講師などの situation に設定し、自由な話し合いができればよかったと思います。
特記事項なし		あっという間でしたが、思ったより楽しくできた気がします。プレ ゼン能力向上の必要性を痛感しました。
特記事項なし		練習、準備ともに短い期間で実施する必要があり慌ただしかったが、無事終了できた。 テーマは初めの方の講義から決定していれば、内容理解も深く出来たのではと感じる。
特記事項なし		チームのメンバーで協力し、何度も練習した甲斐あって、今までの研修の成果を発揮できたと思います。ただ、成果発表会の準備時間が短かったように思います。メンバーで集まれるのは土曜日しかないため、最後の数週間は夜中に自宅でメールのやり取りをしながら、資料つくりや調整を行いました。もう 1 回分、集まって話し合える時間が取れましたら、もう少し余裕を持てたように感じました。
特記事項なし		多くの人前でスピーチする機会が少なかったので、トレーニングの良い機会になりました。特に英語で考えていることを伝えるための方法が役に立ちそうです。
特記事項なし		予想外の質問が来て、逆に想定していたことが聞かれなかったことにおどろいた。
特記事項なし		普段からリーディングでタスクが多く、常にオーバーワーク（特にフロンティア宇宙プログラムは他のリーディングプログラムよりタスクがひどいと言われている。）であるのに、成果発表の直前まで、国際学会、出張と他手続きにあったため、チームの皆さんには大きな迷惑をかけてしまった。しかし、チーム皆さん・英会話講師のフォローで何とか乗り越えられることができた。本当にこのプログラムをやってよかったと実感した。
特記事項なし		まだ学生なので、慣れないミーティング・ネゴシエーションの実践でしたが、だからこそ、より多くのことを今のうちに経験出来てよかったです。
特記事項なし		先生や会社の上司の人たちの前で発表するプレッシャーを感じることで、緊張感をもって過ごすことができ、チームでまとまっていく、よりよい発表にしていく姿勢がみられるようになってよかったと思う。

（6）事務局・講師に対する意見

教材と目次の整理が必要。	教材改善	分厚い資料集について、目次が最初にあるものの目的の資料がどこにあるかわかりづらいので、工夫してもらいたい。
中小企業からみた民間航空機産業進出への課題に つき教材化できるか検討する。	講義内容 教材改善	機体レベルの話を聞けたことは、非常に有益でしたが、話が 完全にプライムよりとなっていたため、できれば装備品メーカの DO-178、DO-254 や NADCAP への取組みや、中小企 業の観点から見た民間航空機産業進出への問題点などの話があると良かったと思います。
Video 用マイクの購入を検討。 演習の Video の共有化等検討する。	講義資材購入	One minute speech がとてもためになりました。 ビデオで発表を撮って、Onedrive などにあげるなどして、ビデオで復習できると、より復習がはかどると思いました。
英語の時間外課題（宿題）等でビジネス英語の基 礎を自習させる等検討する。	講義方法改善	大学院生や社会人が受講生のため、時間的余裕やモチベーションにおいて差異が存在するが、英語の学習について は、時間外課題を additional で与えていただけると全体にレベルの底上げに繋がり良いと思う。